構造設計標準仕様

適用は□印を記入する。

1．建築物の構造内容

（1）工事名称　定住促進住宅整備実施設計業務
（2）工事種別　新築
（3）構造種別
□木造（W）　□補強コンクリートブロック造（CB）　□鉄骨造（S）
□鉄筋コンクリート造（RC）　■壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
□鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）　□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□プレストレスト鉄筋コンクリート造（PRC）
（4）階　数　地下　　階　　地上　2階　　塔屋　　階
（5）主要用途　共同住宅
（6）屋上付属物
□広告塔　□エコキュートタンク・室外機　□空調室外機
□ヒートポンプ　□消火充水槽
（7）増築計画　□有（　　）■無
（8）付帯工事
□門塀　□擁壁
（9）特別な荷重
□エレベータ　人乗　□リフト　KN　□組立プール　KN
□倉庫積載床用　N／㎡　□高架水槽　KN
（10）構造設計ルート　X方向ルート　（ 1 ）　Y方向ルート　（ 1 ）
（11）表記外は公共建築工事標準仕様書(最新版)による。
（12）耐震安全性の分類（官庁施設の総合耐震計画基準）　（Ⅲ類　I =1.00）
（13）住宅性能表示制度
・耐震等級（構造躯体の倒壊等防止）　（特になし）
・耐震等級（構造躯体の損傷防止）　（特になし）
・耐風等級（構造躯体の倒壊防止及び損傷防止）　（特になし）
・劣化対策等級（構造躯体等）　（特になし）

2．使用構造材料

（1）コンクリート
・水セメント比55%以下
・単位水量 180kg／m^3以下（ひび割れ制御設計 ： 建築学会より）
（コンクリートの品質が得られる範囲内で出来るだけ小さくする。）
・単位粗骨材量はコンクリートの品質が得られる範囲内で出来るだけ大きくする。
・空気量 4.5%（管理許容値 ±1.5%）

砂利および砂の品質（JASS 5 表4.2）

種　類	絶乾密度 (g/cm^3)	吸水率(%)	粘土塊量(%)	微粒分量(%)	有機不純物	塩化物(%) (NaCl として)
砂　利	2.5以上	3.0以下	0.25以下	1.0以下	－	－
砂	2.5以上	3.5以下	1.0以下	3.0以下	標準色液または色見本の色より淡い	0.04以下

・計画供用期間の級が長期以上の場合は砂の塩化物量 0.02%以下
・砂利および砂は上表の品質を有するものとする、ただしその骨材を用いたコンクリートが所定の品質を有する事が確認された場合は計画供用期間の級が長期以上の場合を除いて工事監理者の承認を得、絶乾密度2.4以上、吸水率4.0以下の砂利、砂および塩化物が0.04を超え1.0以下の砂を使用できる。

※（ ）内は暑中 $_{28}S_{91}$ の標準値を示す。

適用箇所	種　類	設計基準強度 Fc=N/mm^2	スランプ cm	構造体強度補正値 $_{28}S_{91}$	備考
捨コンクリート	普通コンクリート	18	15	－	
土間コンクリート	普通コンクリート	18	15	－	
基礎、基礎梁	普通コンクリート	24	15	3（6）	
梁床壁	普通コンクリート	24	18以下	3（6）	
混和剤	施工性及び配合計画による。				

※その他、監理者との協議の上、調合管理強度はJASS5(最新版)に準用する。
※監理者と協議の上、高強度コンクリート(36<Fc)の構造体強度補正値はJASS5.17節に準用する。
コンクリートの耐久設計基準強度（JASS5）

計画供用期間の級	耐久設計基準強度	備　考
□ 短　期	18 N/mm^2（計画供用期間としておよそ30年）	乾燥収縮率 8 x 10^{-4}が望ましい
■ 標　準	24 N/mm^2（計画供用期間としておよそ65年）	乾燥収縮率 8 x 10^{-4}が望ましい
□ 長　期	30 N/mm^2（計画供用期間としておよそ100年）	乾燥収縮率 8 x 10^{-4}
□ 超長期	36 N/mm^2（計画供用期間としておよそ200年）	乾燥収縮率 8 x 10^{-4}

※コンクリートの品質基準強度は、設計基準強度、又は耐久設計基準強度の大きい方の値とする。
（2）コンクリートブロック（CB）
□A種　□B種　□C種　厚□100　□120　□150　□190
（3）鉄　筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■SD295	D10～D16	躯体一般	■重ね継手
	□			
	■SD345	D19～D22	躯体一般	■ガス圧接継手
	□			
高強度せん断補強筋	□			□特殊継手
溶接金網	□			（　　）

※定着方法は基本的に在来工法とし、各部材の配筋標準図に準用する。
※配筋の納まり、施工性を考慮して機械式定着工法を全体及び部分的に使用する事は可能とする。

（4）鉄　骨

	種　類	使用箇所	現場溶接	備　考
鋼　材	□SS400　□SSC400		□有 □無	
	□SN400(A・B・C)　□SN490(A・B・C)		□有 □無	
	□SM400(A・B・C)　□SM490(A・B・C)		□有 □無	
	□STK400　□STK490		□有 □無	
	□STKR400　□STKR490		□有 □無	
	□BCR295　□BCP235　□BCP325		□有 □無	

（5）ボルト
□高力ボルト　□F10T　□F8T　□S10T認定品(□M12.□M16.□M20.□M22)
□中ボルト　Φ=　　高力ボルトすべり係数試験　□要　□否
□アンカーボルト　　構造図による
□ハイベースNEO　（既製品）
□頭付スタット　　φ=　　L=　　mm　（　　）
（6）屋根、床、壁　　使用箇所
□ALC版　　厚
□折版　　型式　　H=　　厚
□屋根ふき材等の緊結
屋根ふき材、外装材及び屋外に面する帳壁の構造方法を、建築基準法施行令第39条第2項及び建設省告示第109号の各規定に準ずる性能を有するものとする。

3．地　盤

（1）地盤調査資料
■有（■敷地内　□近隣）　■ボーリング調査　□平板載荷試験　□表面波探査
□無（調査予定□有　□無）
（2）地盤調査計画
□ボーリング調査　□静的貫入試験　□標準貫入試験　□水平地盤反力係数の測定
□土質試験　□物理探査　□平板載荷試験
（3）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
（4）ボーリング標準貫入値、土質構成　→S-06　参照

4．地業工事

（1）直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験堀□有　□無
支持層
長期必要許容支持力度　KN/m^2　載荷試験□有　□無
（2）地盤改良　□有　□無
□ラップルコンクリート
□S-Sコラム工法同等
□テノコラム

（3）杭基礎　支持層－凝灰角礫岩

杭　種	材　料	施工法	備　考
□RC　□PHC □HIBD　□HF-PHC ■鋼管 □摩擦杭 □CPRC	PHC(□A種　□B種　□C種) HF-PHC(□A種　□B種　□C種) 鋼材□SS400■STK490 CPRC(□Ⅰ種□Ⅱ種□Ⅳ種)	□打ち込み □埋込み(セメントミルクエ法) □オーガー併用打撃工法 ■TGパイルエ法同等以上	認定番号 TACP-0670 TACP-0671
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート　Fc= スランプ　cm セメント量　kg/m^3 鉄筋　主筋　SD HOOP　SD	□オールケーシング　□拡底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル　□ミニアース □BH　□深礎　□手掘 □機械掘	拡底杭 日本建築センター認定 第　　号 年　月　日

杭仕様　■施工計画書承認　■杭施工結果報告書
試験杭　■有・□無）　（■認定工法による確認 □載荷）

5．鉄筋コンクリート工事

（1）コンクリート
■コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5(最新版)による。
■セメントは、JIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
□フライアッシュコンクリートは、JIS A 6201に示される Ⅱ種に適合するものを原則とする。
■調合計画は、工事開始前に工事監理者と協議の上、JASS5(最新版)、又は共通仕様書(国土交通省)に準じ承認を得ること。
■「レディミクストコンクリートの品質確保について」(平成15年11月10日付け　国営建第95号)及び「「レディミクストコンクリートの品質確保について」の運用について」(平成15年11月10日付け国営技第71号)を適用することを念頭に、施工計画を立てる事。
(沖縄県の構造計画・施工計画の留意事項)
■寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を1回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
■構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、標準養生、現場水中養生及び現場封かん養生とし、採取は、打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打込み量が150m^3をこえる場合は150m^3ごと又は、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし そのうち4週用に3本を用いる。試験体の3本は圧縮強度の平均値を出すので、別々の運搬車からコンクリートを採取する。{3本=3台、6本=(1台×2本)=3台}

■打継ぎ時間間隔の限度

	県仕様	通常
25℃未満	120分	150分
25℃以上	90分	120分

■練混ぜから打込み終了までの時間

	県仕様	通常
25℃未満	90分	120分
25℃以上	60分	90分

※沖縄県の構造計画・施工計画の留意事項
※参考　日平均気温が25℃を超える期間　沖縄：6/2～10/17　JASS5(最新版)
（2）鉄　筋
■鉄筋はJIS G 3112の規格品を標準とする。
■鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継ぎ手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
■D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書　ガス圧接継手工事」による。
■ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に1回行い、超音波探傷試験の場合30箇所以上とする。
外観検査■有□無、　引抜試験□有■無、　超音波探傷試験■有□無
■柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、■H型(タガ型)■W型(溶接型)■S型(スパイラル型)とする。
■コンクリート及び鉄筋の試験は「沖縄県建設技術センター」で現場代理人及び工事監理者双方の立合いの共で行うこと。ただし、現場代理人及び工事監理者との協議により、立ち合いを検査記録の提出に替えることができる。
■施工計画　　構造部材
・打ち込み及び締め固め方法　JASS5(最新版)に準用する　・今第37条、第72条、第74条、第75条、第79条、第79条の3及び第80条の2の規定に適合するものとする。
・打継ぎ部の処理方法　JASS5(最新版)に準用する
・養生方法　JASS5(最新版)に準用する
（3）型　枠
■材料　　合板厚12m/mを標準とする。　□打放し部分パネコート型枠合板とする。
■型枠存置期間

※〈　〉はJASS5の計画供用期間　※(　)はJASS5からの抜粋

種類 / 部位		せき板						支柱			
		基礎、はり側、柱、壁			スラブ下、はり下			スラブ下			はり下
セメントの種類 / 存置期間の平均気温		早強ポルトランドセメント	シリカセメントA種 高炉セメントA種 普通ポルトランドセメント	フライアッシュセメントB種	早強ポルトランドセメント	シリカセメントA種 高炉セメントA種 普通ポルトランドセメント	フライアッシュセメントB種	早強ポルトランドセメント	シリカセメントA種 高炉セメントA種 普通ポルトランドセメント	フライアッシュセメントB種	フライアッシュセメント シリカセメントA種 高炉セメントA種 普通ポルトランドセメント 早強ポルトランドセメント
コンクリートの材令(日)	(20℃以上 15℃以上)	2(2)	3(4)	5	4	6	8	8	17	28	28
	(10℃～20℃ 5℃～15℃)	3(3)	5(6)	7	6	10	12	12	25	28	28
	5℃未満	5	8	10	10	16	18	15	28	28	28
コンクリートの圧縮強度		〈短期・標準〉5N/mm^2 〈長期・超長期〉10N/mm^2			設計基準強度の50%			設計基準強度の 85%(100%)			100%

注)1 片持梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の指示による。
他、設計基準強度100%の圧縮強度が確証されるまでとする。
注)2 大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注)3 例外的に支柱の盛りかえを行う場合は「現場打コンクリートの型枠及び支柱の取り外しに関する基準」による。
注)4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注)5 支柱の盛りかえは、小梁が終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注)6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。
注)7 スラブ下及び梁下のせき板は、原則として、支柱を取り外したのちに取り外す。
ただし、存置日数又はコンクリートの設計基準強度の50%以上の強度を確認することにより、支柱を取り外す前にせき板を外す方法もある。
（4）湿潤養生
■打込み後のコンクリートは、透水性の小さいせき板による被覆、養生マットまたは水密シートによる被覆、散水・噴霧、膜養生剤の塗布などにより湿潤養生を行う。

a. 湿潤養生期間・養生方法

セメントの種類 ＼ 計画供用期間の級	短　期 および 標　準	長　期 および 超長期
早強ポルトランドセメント	3日以上	5日以上
普通ポルトランドセメント	5日以上	7日以上
中庸熱および低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種 フライアッシュセメント	7日以上	10日以上
	海水の影響が考えられる場合 28日以上	

〈湿潤養生方法〉
■養生マットまたは水密シートなどで覆い、水分を維持する方法
■連続または断続的に散水または噴霧を行い、水分を供給する方法
■膜養生剤や浸透性の養生剤の塗布により、水分の逸散を防ぐ方法

b. コンクリート部分の厚さが18cm以上の部材において、早強、普通および中庸熱ポルトランドセメントを用いる場合は、上記の湿潤養生期間の終了以前であっても、コンクリートの圧縮強度が計画供用期間の級が短期および標準の場合は10N/mm^2以上、長期および超長期の場合は15N/mm^2以上に達したことを確認すれば、以降の湿潤養生を打ち切ることができる。
[注] JASS5 T-603(構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度試験方法)によって、養生方法は、現場水中養生または現場封かん養生とする。
c. (3)型枠　に定めるせき板の存置期間後、上記a.に示す日数またはb.に示す圧縮強度に達する前にせき板を取り外す場合は、その日数の間または所定の圧縮強度が発現するまで、コンクリートを散水・噴霧、その他の方法によって湿潤に保たなければならない。
d. 気温が高い場合、風が強い場合または直射日光を受ける場合には、コンクリート面が乾燥することがないように養生を行う。

6．鉄骨工事

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による
□日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
□鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
（2）工事監理者の承認を必要とするもの
□製作工事　□製作要領書　□工作図　□施工計画書
建築基準法施工規則1条の3の第1項による認定工場(□S　□H　□M　□R　□J)
□材料規格証明書または試験成積書
□鋼材　□高力ボルト　□特殊ボルト　□スタッドボルト
□社内検査表
（3）工事監理者が行う検査項目
(□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
□現寸検査　□組立・開先検査　□製品検査　□建方検査
（4）接合部の溶接は下記によること
□日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
□日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」
（5）接合部の検査
□溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数		
		社　内	第三者	工事監理者
□突合せ溶接部 □隅肉溶接部	探傷試験	100　%	A0QL:4.0　第6水準	抜き取り
	外観（目視）検査	100　%	100　%	抜き取り
	マクロ試験・その他	－　個	－　個	－　個
第三者検査機関名	工事監理者の承認を得ること。(各種溶接協会　認定業者)			
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。				
備考	溶接部試験の規準は日本建築学会「鋼構造溶接部の超音波探傷検査基準」による。 柱継手がある箇所は溶接部の上下を一本の素管を切断して制作し食い違いを回避する。 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。 パス間温度管理報告書（写真付）を監理者へ提出する事。 溶接部外観検査については合格欠陥であっても写真撮影を行い監理者に報告する事。			

□高力ボルトは「S10Tの高力ボルト」を標準とする。
摩擦面はメッキ後、軽くブラスト処理を施し、表面粗度は50μmRz以上とする。
□高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
□締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
□雨天時には摩擦面に雨水の浸入を防ぐ措置がなされない場合は施工を中止する。
（6）防錆塗装
□防錆塗装は、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)18章3節に準用する。

7．設備関係

■特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
■設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
■埋め込み配管は、電気工事監理指針に倣い施工を行うこと。
床の埋め込み配管は床特記事項参照。
■柱、梁材内部に軸方向への配管設備は断面欠損になるため、行わないこと。
■梁を横断する場合は、多数の配管をまとめて横断させない、あばら筋間に1本の配管とする。
■梁主筋と直交する配管はカブリに注意すること
令129条の2の3の事項
・ 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
■建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
■屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
□煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
■建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
■風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
■建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
■管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
■管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
■法第20 条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
■給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれがないものとするほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

8．その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
■ 各認定品・評価品の施工は、施工計画書に倣う。

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	構造設計標準仕様
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	NO SCALE
適　要				図面番号	Ｓ－０１
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称：株式会社　宮平設計
					資格者氏名：一級建築士　徳村　泉
					登録番号：一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
					所　在　地：沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）　構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）　記号

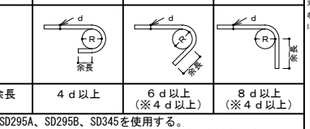
ｄ…異形棒鋼の呼び名に用いた数値　　Ｄ…部材の成　　Ｒ…直径　　@…間隔

ｒ…半径　　℄…中心線　　ℓh…部材間の内法距離　　ｈｏ…部材間の内法高さ

ＳＴ…あばら筋　　ＨＯＯＰ…帯筋　　Ｓ．ＨＯＯＰ…補強帯筋　　φ…直径

２．鉄筋加工、かぶり

（１）　鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	１８０°	１３５°	９０°
図			
鉄筋の余長	４ｄ以上	６ｄ以上（※４ｄ以上）	８ｄ以上（※４ｄ以上）

折曲げ角度９０°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むＴ形およびＬ形梁のキャップタイにのみ用いる。

※片持スラブ上端筋の先端

鉄筋は、SD295A、SD295B、SD345を使用する。
折曲げ内法寸法Ｒは、D16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

（２）　鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋の折曲げ角度９０°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法（Ｒ）
	壁ばりの縦・横筋あばら筋	ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ、ＳＤ３４５	Ｄ１６　以下	３ｄ以上
			Ｄ１９　以上	４ｄ以上
	上記以外の鉄筋	ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ、ＳＤ３４５	Ｄ１６　以下	
			Ｄ１９～Ｄ２５	６ｄ以上

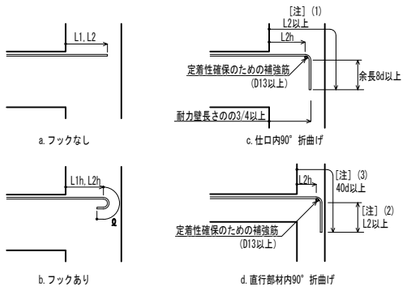
（３）　鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

※軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。
※壁式構造配筋指針・同解説（2010改定）より

コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)	重ね継手長さ L1（L1h）		耐震部材(耐力壁、壁梁、臥梁、基礎梁)および片持ち部材の引張り鉄筋の定着長さ L2（L2h）		非耐震部材(小梁、スラブ)の引張り鉄筋の定着長さ L2（L2h）		非耐震部材(小梁、スラブ)の圧縮鉄筋の定着長さ L3（L3h）	
	鉄筋種別		鉄筋種別		鉄筋種別			
	ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ	ＳＤ３４５	ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ	ＳＤ３４５	ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ	ＳＤ３４５	小梁	スラブ
１８	４５ｄ(３５ｄ)	５０ｄ(３５ｄ)	４０ｄ(２０ｄ)	４０ｄ(２０ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)	３５ｄ(２０ｄ)	２０ｄ(1)（１０ｄ）	１０ｄ(1) かつ、１５０mm以上
２１	４０ｄ(３０ｄ)	４５ｄ(３５ｄ)	３５ｄ(２０ｄ)	４０ｄ(２０ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)	３５ｄ(２０ｄ)		
２４	３５ｄ(２５ｄ)	４０ｄ(３０ｄ)	３５ｄ(１５ｄ)	４０ｄ(２０ｄ)	２５ｄ(１５ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)		
２７	３５ｄ(２５ｄ)	４０ｄ(３０ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)	３５ｄ(２０ｄ)	２５ｄ(１５ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)		
３０	３５ｄ(２５ｄ)	３５ｄ(２５ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)	３５ｄ(２０ｄ)	２５ｄ(１５ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)		
３３	３５ｄ(２５ｄ)	３５ｄ(２５ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)	３５ｄ(１５ｄ)	２５ｄ(１５ｄ)	２５ｄ(１５ｄ)		
３６	３５ｄ(２５ｄ)	３５ｄ(２５ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)	３０ｄ(１５ｄ)	２５ｄ(１５ｄ)	２５ｄ(１５ｄ)		

［注］　(1)　片持ち形式の圧縮鉄筋の長さL3（L3h）以上とする。ただし、地震時の設計用鉛直震度を大きく設計する場合は、設計図書に定着長を記載するか、またはL3を25d以上とする。

【定着方法】定着金物を使用する場合は各メーカーの仕様にならう。



＜直線定着＞　　＜折曲げ定着＞

［注］　(1)　耐震部材の耐震壁・壁梁仕口内に90°折曲げ定着する場合で、フック付き定着長さL2hを満足定しない場合は、定着起点から鉄筋先端までの長さを表（３）のL2以上確保するとともに、投影定着長さは耐震壁長さの3/4以上、折曲げ終点から鉄筋先端までは8d以上確保し、折曲げ部内側にD13以上の補強筋を配置する。

(2)　耐震部材または小梁、片持ち梁、片持ちスラブのの主筋を直行部材内に折曲げ定着する場合は、折曲げ終点から鉄筋先端までの長さを表（３）のL2以上確保するとともに、折曲げ部内側にD13以上の補強筋を配置する。

(3)　スラブ主筋を折曲げ定着する場合で、定着長さが表（３）のフック付き定着長さL2hを満足しない場合は、定着起点から鉄筋先端までの長さを40d以上確保する。

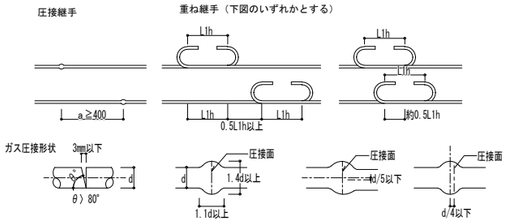
継　　手

１．末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない

２．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする

３．直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

４．原則としてD22以上の異形鉄筋には重ね継手は用いてはならない



（３）　かぶり厚さ

※沖縄県土木建築部施設建築課、第1618号による劣化対策及び「日本住宅性能表示基準」「劣化等級３」に準ずる。

ひび割れ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部　位			水セメント比 50%以下 最小かぶり厚さ(mm)	水セメント比 50%以下 設計かぶり厚さ(mm)	水セメント比 55%以下 最小かぶり厚さ(mm)	水セメント比 55%以下 設計かぶり厚さ(mm)
直接土に接しない部分	耐力壁以外の壁又は床	屋内	２０	３０	３０	４０
		屋外	３０(1)	４０	４０(1)	５０
	耐力壁, 柱又は梁	屋内	３０	４０	４０	５０
		屋外	４０(1)	５０	５０(1)	６０
直接土に接する部分	壁, 柱, 床, 梁又は布基礎の立上り部分		４０	５０	５０	６０
	基礎(布基礎の立上り部分を除く)		６０	７０	７０	８０

〔注〕（１）外壁の屋外に面する部位にタイル貼り、モルタル塗り、外断熱工法による仕上げその他これらと同等以上の性能を有する処理が施されている場合にあっては、屋外側の部分に限り、最小かぶり厚さを１cm減ずることができる。

（２）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値（設計かぶり厚さ）を標準とする。

（３）鉄筋組立後のかぶり厚さは、設計かぶり厚さを原則とし、監理者の承認を得た場合は、部分的に最小かぶり厚さを採用できるものとする。

（５）　鉄筋のあき

ａ．異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上

ｂ．粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上

（６）　鉄筋のフック　（ａ～ｆに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

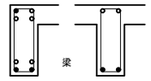
ａ．壁長が１m以下の壁横筋の末端　ｂ．あばら筋、帯筋　ｃ．煙突の鉄筋

ｄ．柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）

ｅ．単純梁の下端筋

ｆ．その他、本配筋標準に記載する箇所

● 印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



３．杭

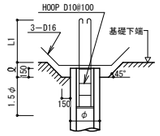
（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

（１）　A形基礎の杭全てに補強を行う

既成杭（ＰＨＣ、ＰＲＣ）所定より低く止まった場合

但しℓ≦φの場合

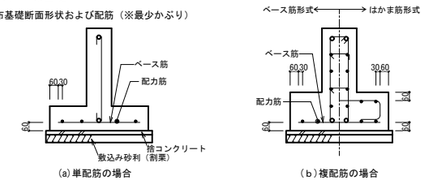
ℓ＞φの場合は工事監理者の指示による



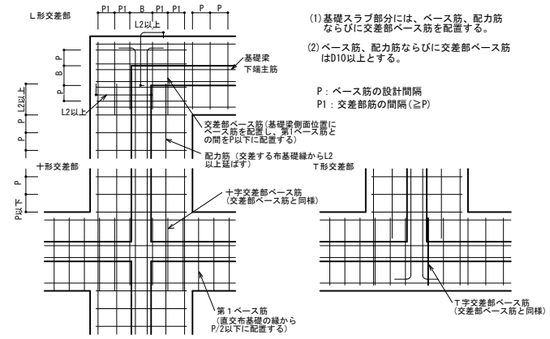
４．基　礎

（１）　布基礎

布基礎断面形状および配筋（※最少かぶり）



布基礎交差部の配筋（平面）



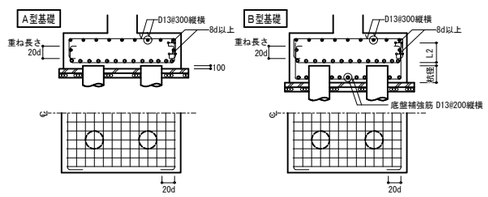
(1)基礎スラブ部分には、ベース筋、配力筋ならびに交差部ベース筋を配置する。

(2)ベース筋、配力筋ならびに交差部ベース筋はD10以上とする。

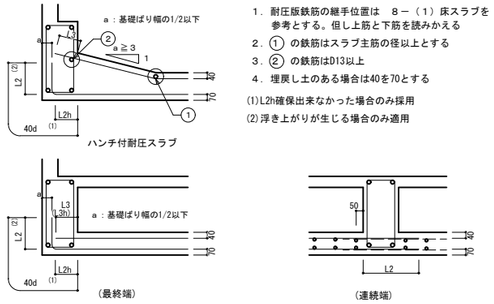
P：ベース筋の設計間隔

P1：交差部筋の間隔(≦P)

（２）　杭　基　礎



（３）　べた基礎



１．耐圧版鉄筋の継手位置は　８－（１）床スラブを参考とする。但し上筋と下筋を読みかえる

２．① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

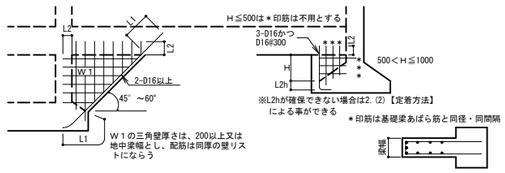
３．② の鉄筋はD13以上

４．埋戻し土のある場合は40を70とする

(1)L2h確保出来なかった場合のみ採用

(2)浮き上がりが生じる場合のみ適用

（４）　基礎接合部の補強



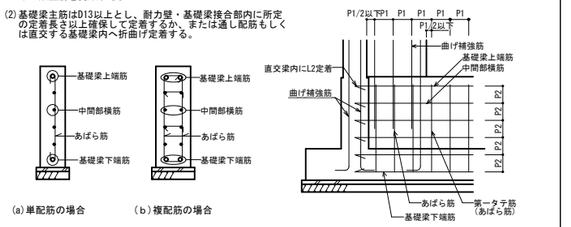
５．基礎梁

(1)地中梁内縦筋はあばら筋形式とし、複配筋にあっては末端を135°以上に折り曲げ、単配筋にあっては180°以上に折り曲げて梁主筋を拘束する。

(2)基礎梁主筋はD13以上とし、耐力壁・基礎梁接合部内に所定の定着長さ以上確保して定着するか、または通し配筋もしくは直交する基礎梁内へ折曲げ定着する。

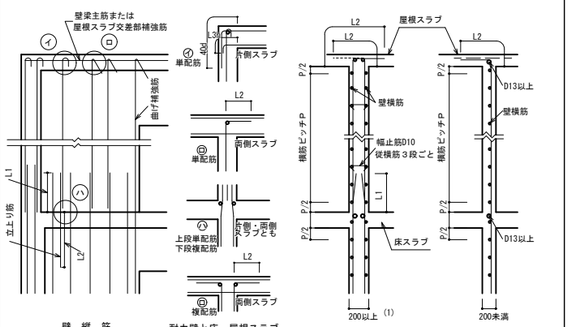
P1：タテ筋の設計間隔

P2：ヨコ筋の設計間隔

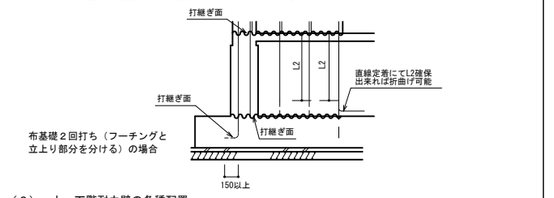


６．耐力壁

（１）　縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着

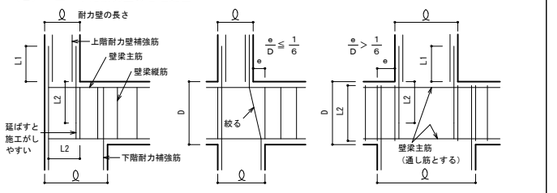


(1)耐力壁の厚さは、単配筋にあっては120mm以上、複配筋にあっては、原則として200mm以上とし、設計図書による。なお、耐力壁および壁梁の端部曲げ補強筋がD16以下で、かつ耐力壁の横筋および壁梁の縦筋がD10の場合は、180mm以上としてもよい。



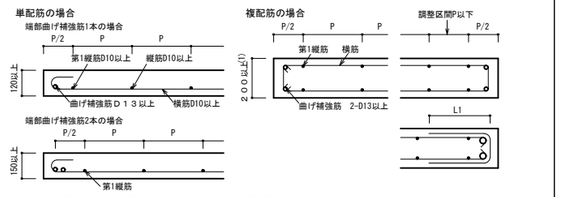
布基礎２回打ち（フーチングと立上り部分を分ける）の場合

（２）　上・下階耐力壁の各種配置



（３）耐力壁の縦・横筋の配置

※曲げ補強筋の径・本数は、壁配筋リストに準拠すること。



(1)耐力壁の厚さは、単配筋にあっては120mm以上、複配筋にあっては、原則として200mm以上とし、設計図書による。なお、耐力壁および壁梁の端部曲げ補強筋がD16以下で、かつ耐力壁の横筋および壁梁の縦筋がD10の場合は、180mm以上としてもよい。

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	NO SCALE
適　要				図面番号	Ｓ－０２
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名　称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

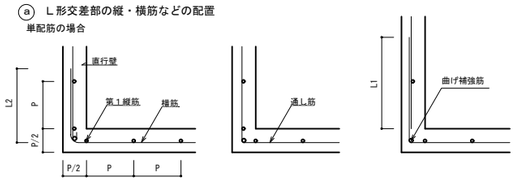
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

L＝鉄筋コンクリート構造配筋
標準図（１）の２－（３）による。

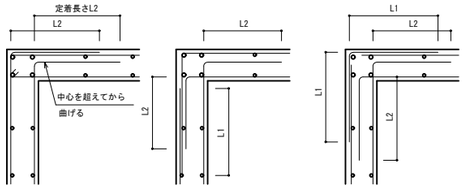
（４）耐力壁が交差する場合（平面）

ⓐ L形交差部の縦・横筋などの配置

単配筋の場合

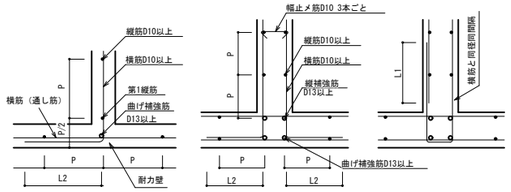


複配筋の場合



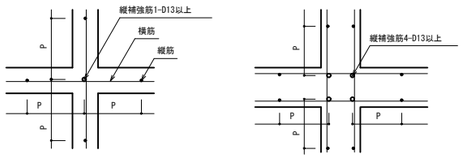
ⓑ T形交差部の縦・横筋の配置

単配筋の場合　　複配筋の場合



ⓒ 十形交差部の縦・横筋などの配置

単配筋の場合　　複配筋の場合

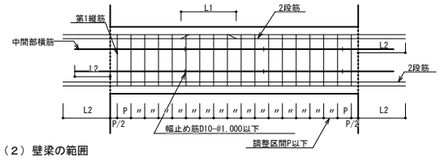


※交差部では原則として横筋の継手を設けない。

7．壁梁、小梁

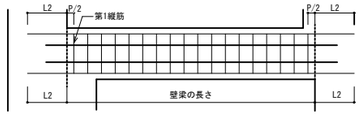
（１）壁梁の標準配筋図

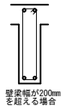
※縦筋及び横筋の継手に原則として重ね継手を用いてはならない。しかし、梁主筋が016以下でかつ一段配筋の場合は、この限りではない。



壁梁幅が200mm以下の場合

（２）壁梁の範囲



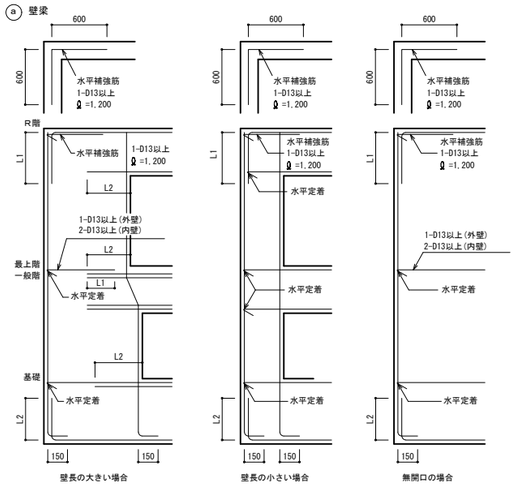


壁梁幅が200mmを超える場合

(a)壁梁の厚さ及び配筋

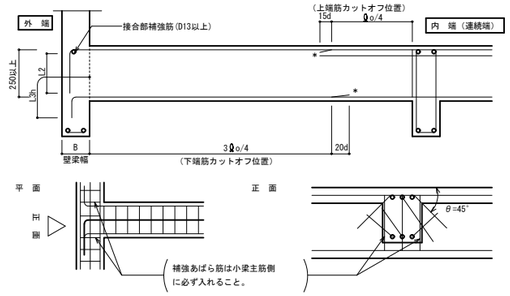
（３）定着

ⓐ 壁梁

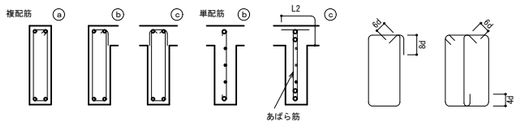


壁長の大きい場合　　壁長の小さい場合　　無開口の場合

ⓑ 小梁の定着・継手位置及びトップ筋長さ



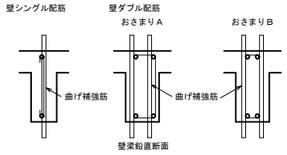
（４）あばら筋の型

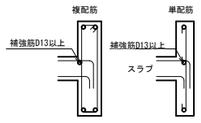


（イ）原則として ⓐ のフック先曲げとする。
片側床版付（L型）梁で ⓑ 、
両側床版付（T型）梁で ⓒ とすることができる。
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、
ⓑ にあってはスラブ側とする。

（５）壁梁と壁のおさまり

壁梁の幅は耐力壁の厚さ以上とする





梁幅の最小寸法（構造体寸法）

（単位　mm）

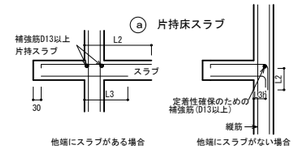
おさまり	はり主筋	曲げ補強筋		おさまり	はり主筋	曲げ補強筋	
		D13	D16			D13	D16
A	D13	180	180	B	D13	195	200
	D16	210	210		D16	210	220
	D19	210	210		D19	210	230

（注）かぶり厚さ　40mm　の場合

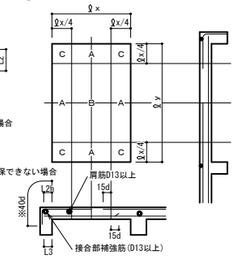
8．床　板

（１）定着および継手

ⓐ 片持床スラブ



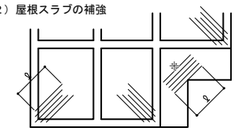
ⓑ 一般床スラブ



継手位置は原則として下表による。

		標準継手位置
上端筋	短　辺　方　向	B
	長　辺　方　向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A　C

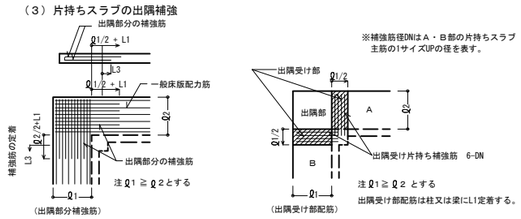
（２）屋根スラブの補強



ⓐ 補強筋は各5-D10　又はスラブ主筋の同一径で
ℓ=1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ ※の箇所（入隅）各階補強する

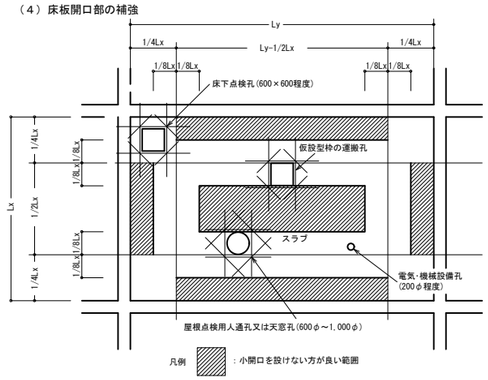
（３）片持ちスラブの出隅補強

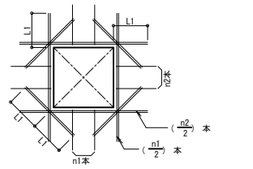
※補強筋径DNはA・B部の片持ちスラブ
主筋の1サイズUPの径を表す。



補強の配筋は特記による。特記がなければ D10-100 @ダブルとする。

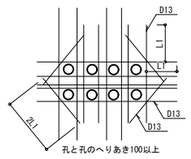
（４）床板開口部の補強





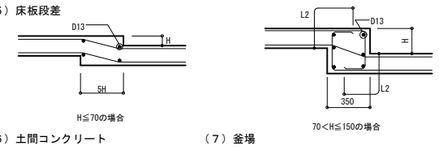
注）スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強(上下)し、隅角部に斜め方向に2-D13(L=2L1)シングルを上下筋の内側に配筋する。

注）スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は補強を省略することができる。



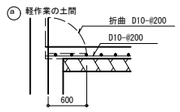
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

（５）床板段差

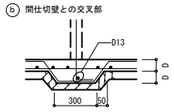


（６）土間コンクリート

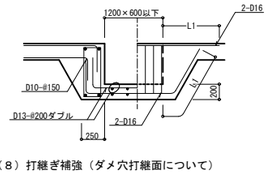
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



（７）釜場

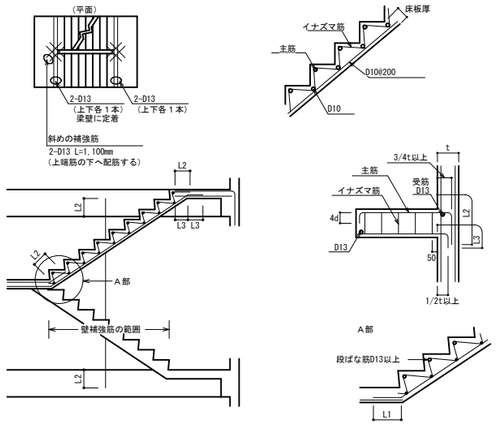


（８）打継ぎ補強（ダメ穴打継面について）

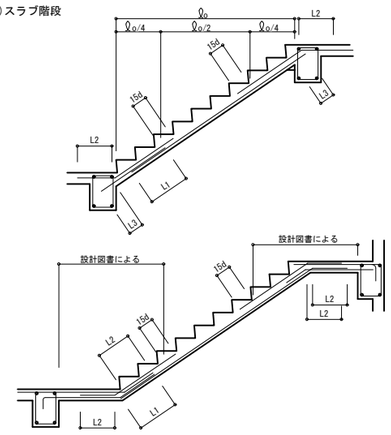
●設計配筋間隔の1/2ピッチ　長さ2L1以上
●無筋部分　D10-@200長さ　800以上

9．階　段

(1)片持ち階段



(2)スラブ階段



※階段および受け壁の鉄筋径・間隔は設計図書の特記による。

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　　尺	NO SCALE
適　　要				図面番号	Ｓ－０３
検　　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

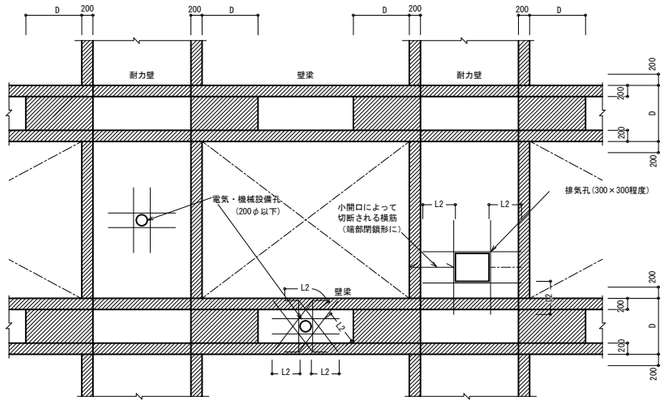
Ｌ＝鉄筋コンクリート構造配筋
標準図（１）の２－（３）による。

１０．梁貫通孔補強

（１）既製品　※貫通孔補強は認定既製品を使用すること。

□　リング型　□　パイプ型　□　金網型　□　プレート型　□

（２）耐力壁および壁ばりの小開口部の補強　　但し、φ≦Ｄ／３とする

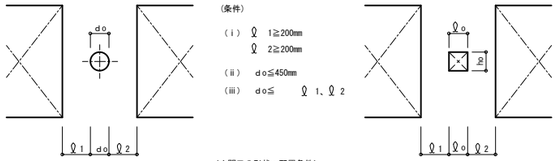


※1. 小開口周囲には所要の定着長さ以上確保した開口補強筋を配筋する。

※2. 小開口設置により切断された横筋は閉鎖形とする。

※3. 小開口周りの斜め補強筋は、縦および横筋に置き換えてよい。

凡例　：小開口を設けない方が良い範囲

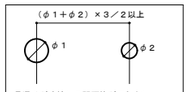


（条件）
（ｉ）　ℓ1≧200mm
　　ℓ2≧200mm
（ii）　do≦450mm
（iii）　do≦ℓ1、ℓ2

（小開口の形状・配置条件）

（条件）
（ｉ）　ℓ1≧200mm
　　ℓ2≧200mm
（ii）　ℓo+ho≦800mm
（iii）　0.5≦ho/ℓo≦2.0

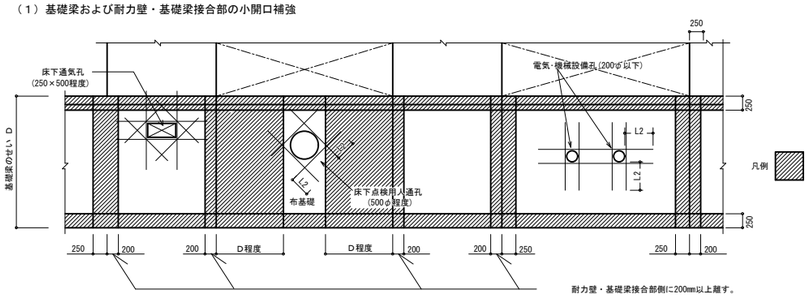
（φ１＋φ２）×３／２以上



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（小開口間隔）

（１）基礎梁および耐力壁・基礎梁接合部の小開口補強



※1. 小開口周囲の補強筋の径および本数は設計図書による。

※2. 小開口周囲の補強筋のうち横筋および斜め筋は所定の定着長さ以上確保する。

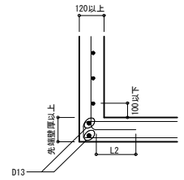
※3. 小開口周囲の補強筋のうち縦筋は閉鎖型とするか基礎梁縦筋に沿って配筋するかのいずれかとする。

※4. 基礎梁の貫通孔補強は原則として既製品を使用する。

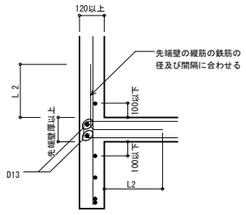
１１．その他

（１）手摺、パラペット

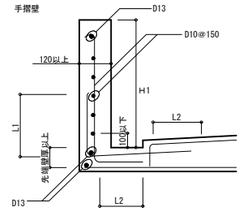
手摺受けスラブ(垂れ壁のない場合)



手摺受けスラブ(垂れ壁のある場合)

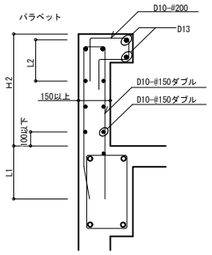


手摺壁



（但し、H1 ）1,100 以上の場合、設計図による）

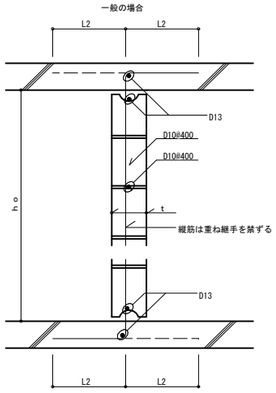
パラペット



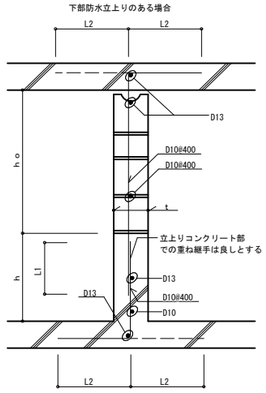
（但し、H2 ）800 以上の場合、設計図による）

（２）コンクリートブロック帳壁

一般の場合



下部防水立上りのある場合



注）ho≦25tかつ3,500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く

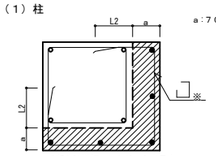
注）ｈはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、重ね定着長さ以上とする。

注）継手部は必ずモルタルを充テンすること

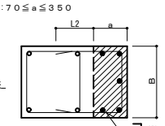
１２．柱、梁増打コンクリート補強

（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）柱



a：70≦a≦350

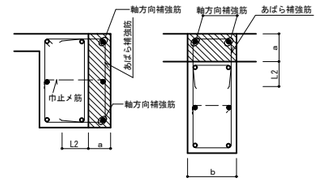


※柱と同径、同ピッチ、同材質とする。
ただし、高強度せん断補強筋を使用する場合はSD295Aの同径、同ピッチとしてよい。

ハッチ部分の面積Ａcm²	補強タテ筋	
Ａ<500	500≦Ａ<1000	1000≦Ａ<1500
３－Ｄ１６	４－Ｄ１６	６－Ｄ１６

●補強タテ筋の定着は20d以上とする。

（２）梁



●補強筋は、D16以上とする。

●あばら補強筋は梁と同径、同ピッチ、同材質とする。
ただし、高強度せん断補強筋を使用する場合はSD295Aの同径、同ピッチとしてよい。

●増し打ち部の腹筋は梁の腹筋と合せる。

●ｂ＞３５０の場合は補強筋を３本とする。
又、梁巾等の大きい場合は鉄筋ピッチは300以下となる様に本数調整する。

●ａは７０≦ａ≦５００の場合適用。

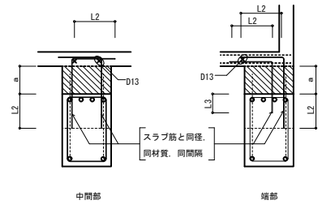
●梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。

●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

●軸方向補強筋の定着はSD30d以上とする。

１３．スラブの打継ぎ補強等

（１）土間スラブの打継ぎ補強

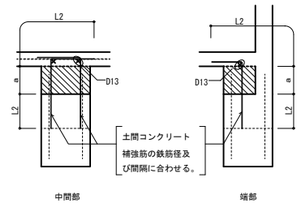


基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

(1) 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。

(2) aが300以下の場合に限る。

（２）土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

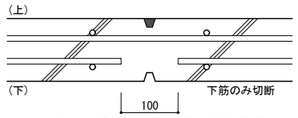
工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	NO SCALE
適　要				図面番号	Ｓ－０４
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

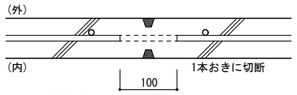
ひび割れ対策要領（案）

（１）片持ちスラブの誘発目地仕様

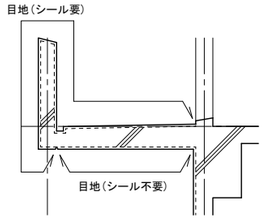
・誘発目地の設け方



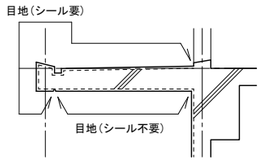
誘発目地部の床スラブ配力筋の切断
（※目地位置は主筋から離す）



誘発目地部の手摺横筋の切断
（※目地位置は縦筋から離す）



立ち上がりがある場合

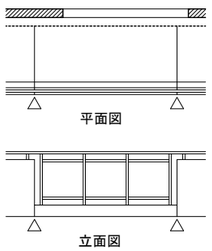


立ち上がりがない場合

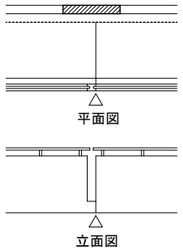
誘発目地の設置間隔は3,000mm以内

・誘発目地の設置位置

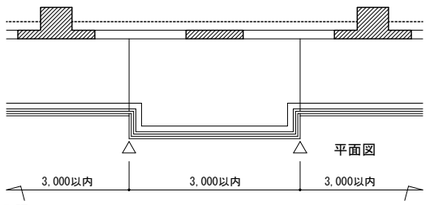
A.コンクリート手摺と金属手摺の境界部



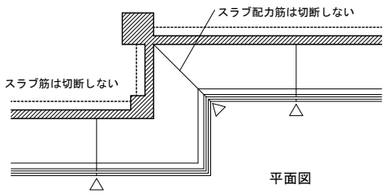
B.コンクリート手摺のスリット開口の一端



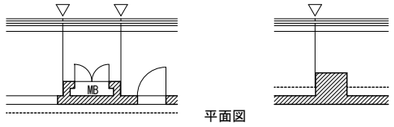
C.床スラブ出寸法が変化する境界部



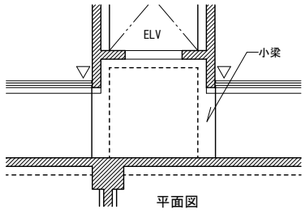
D.雁行した入隅部



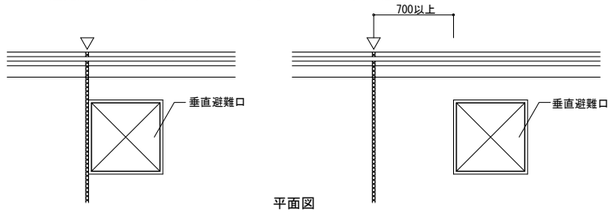
E.柱型やメーターボックス側壁が梁よりも突出する部分



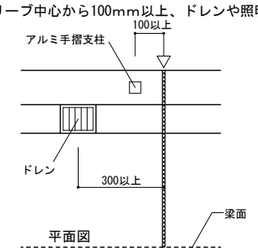
F.外部階段やELVを支える梁の際



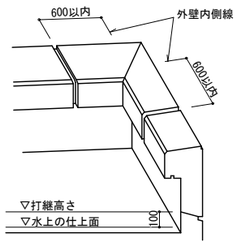
G.床の避難開口の一辺に合わすか、または７００mm以上離す



H.手摺埋込用スリーブ中心から100mm以上、ドレンや照明器具の中心から３００mm以上離す

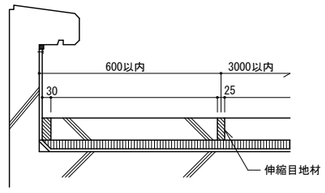


I．パラペット部分誘発目地

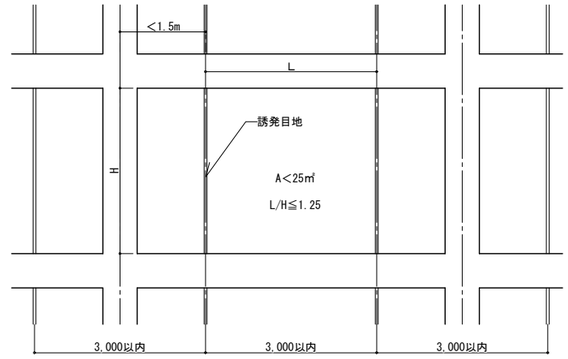


（注） バルコニー手摺立上り部分も同様とする。
また、パラペット位置に設ける丸環位置は目地と一致させる。

J．屋上部分誘発目地



（２）外壁の誘発目地仕様



立面図

・外壁の目地間隔は、縦目地3.0mピッチ以内を原則とする。

・周囲を柱・梁・誘発目地などで囲まれた1枚の壁の面積は25㎡以下とし、1枚の壁の面積が小さい場合を除いて、その辺長比は1.25以下を原則とする。

（辺長比＝壁の長さ※/壁の高さ　※誘発目地がある場合はその間隔）

鉄筋コンクリート打継ぎ要領

（１）打継ぎ要領

・打継ぎ位置は、構造部材の耐力への影響の最も少ない位置に定めるものとし、次の(a)～(c)を標準とする。

(a)梁、床スラブおよび屋根スラブの鉛直打継ぎ部は、スパンの中央または端から1/4付近に設ける。

(b)柱及び壁の水平打継ぎ部は、床スラブ・梁の下端または床スラブ・梁・基礎梁の上端に設ける。

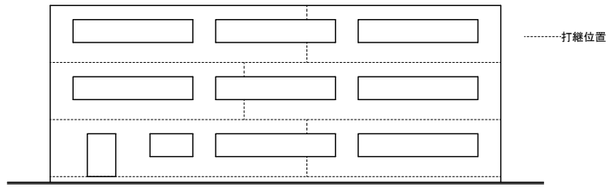
(c)片持床スラブなどのはね出し部は、これを支持する構造体部分と一緒に打込み、打継ぎは設けない。

・打継ぎ部の形状は、打継ぎ面が鉄筋に直角となり、構造部材の耐力の低下が少なく、コンクリート打込み前の打継ぎ部の処理が円滑に行え、かつ新たに打ち込むコンクリートの締固めが容易に行えるものとする。

・コンクリートの打継ぎ面はレイタンス、脆弱なコンクリート、ゴミなどを取り除き、新たに打ち込むコンクリートと一体となるように処置する。

・打継ぎ部のコンクリートは、散水などにより湿潤にしておく、ただし、打継ぎ面の水は、コンクリートの打込み前に高圧空気などによって取り除く。

・鉛直打継位置は下図のように各階にて打継位置を変える事とする。



（２）鉛直打継ぎ部の補強要領

・打継部は計画的に注意しながら施工しても100%の継手は難しいため、不足する設計耐力を確保するために適切に補強を行う。

・鉛直打継ぎ目のせん断強度は、打継ぎ方法により表1.の強度値となる。

設計例） 鉄筋のダボ効果による場合。

コンクリート断面積 x(100%-強度比) x fs ≦ 鉄筋断面積 x fs x 本数

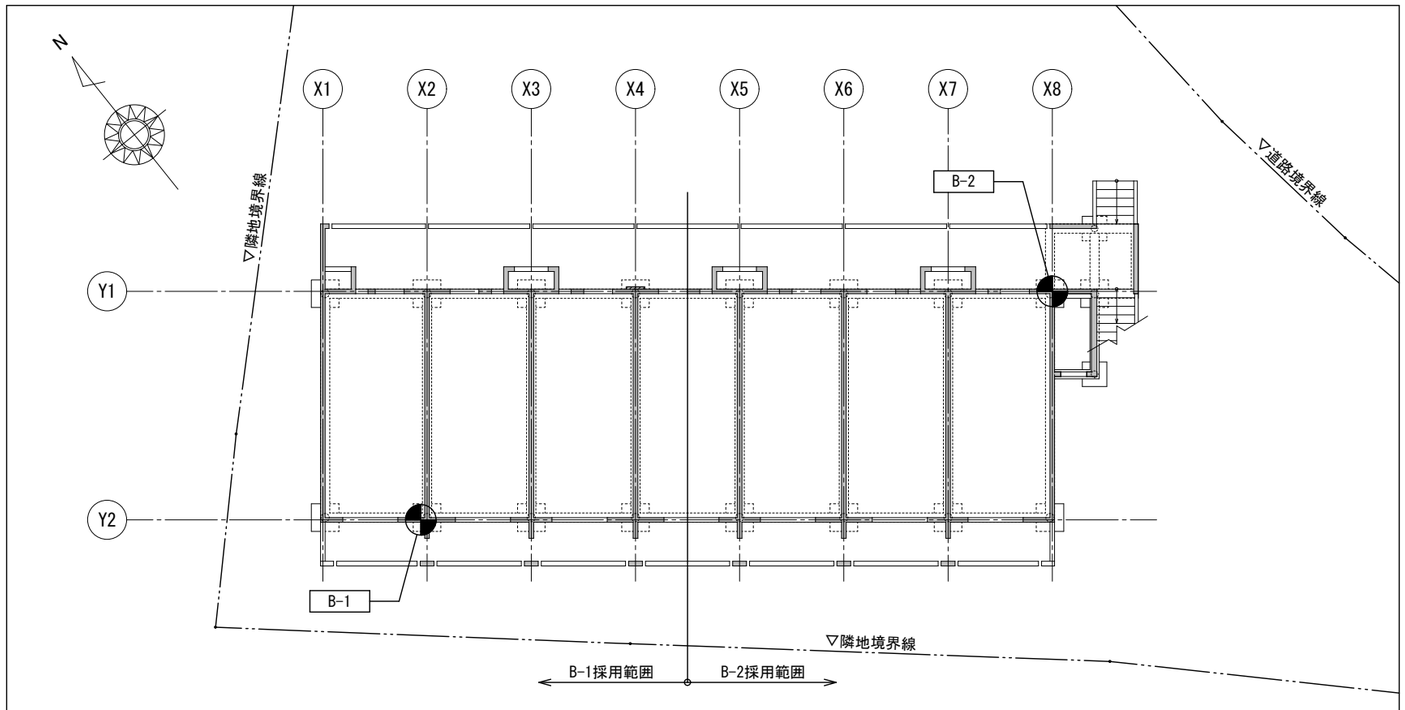
上記式を満たす補強筋を配置する。

打継方法	強度比
旧コンクリート打継ぎ面へそのまま打ち継いだ場合	約57%
打継ぎ面へコンクリート中のモルタルを塗り付けて打ち継いだ場合	約72%
打継ぎ面へセメントペーストを塗って打ち継いだ場合	約77%
打継ぎ面を約1mm削り、セメントペーストを塗って打ち継いだ場合	約83%
打継ぎ面へセメントペーストを塗って打ち継ぎ、約３時間後に振動を与えて締め固めた場合	約98%

表1.鉛直打継ぎ目の強度

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	ひび割れ対策要領（案）
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	NO SCALE
適　要				図面番号	Ｓ－０５
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名　称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号



ボーリング位置図

EL+6.40=設計GL±0

R6B-1

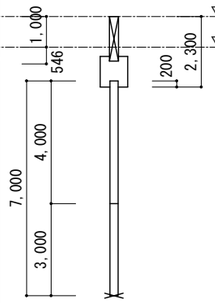
発注機関	久米島町役場　企画財政課	調査位置	久米島町字儀間1041番地
調査業者名	株式会社　宮平設計	調査期間	令和6年9月25日～令和6年9月26日
孔口標高	EL+5.854m	試錐機	YBM-05
総掘進長	10.00m	エンジン	NS60
ハンマー落下用具	半自動トンビ	ポンプ	V-5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	4.60	1.25	1.25	埋土（粘土）	赤褐			赤褐色を呈する粘性土による埋土層。所々にϕ30mm程度の琉球石灰岩礫を混入する。
	3.35	1.25	2.50	砂	淡褐			中～粗砂を主体とする沖積砂層。砂は海洋性生物遺骸により構成される。若干緩い状態である。
	2.05	1.30	3.80	砂礫	淡褐			礫はϕ20mm以下のサンゴ礫。砂は粗砂サイズを主体とする沖積砂礫層。砂は海洋性生物遺骸よりなる。
	0.10	1.95	5.75	礫混じり砂	暗灰			砂は粗砂サイズを主体とする沖積砂層である。貝殻片等を混入する。全体的に緩い状態である。
	-2.70	2.80	8.50	凝灰角礫岩	灰			礫は、ϕ2～20mm程度の安山岩の角礫を多く含む。全体的に非常に密な状態である。
	-4.15	1.45	10.00	安山岩	灰褐			深度8.55m以深は、岩塊状を呈する安山岩である。10cm程の短柱状コアを主体とする。緻密・堅固である。

孔内水位（海面高）：9/26 2.60

標準貫入試験

深度 (m)	打撃回数／貫入量	N値
1.15	5/30	5
1.45		
2.15	6/30	6
2.45		
3.15	5/30	5
3.45		
4.15	7/30	7
4.45		
5.15	5/30	5
5.45		
6.15	16/30	16
6.45		
7.15	60/27	67
7.42		
8.05	60/26	69
8.31		
9.05	60/6	300
9.11		
10.10	60/19	95
10.29		



EL+6.40=設計GL±0

R6B-2

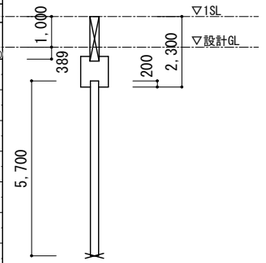
発注機関	久米島町役場　企画財政課	調査位置	久米島町字儀間1041番地
調査業者名	株式会社　宮平設計	調査期間	令和6年9月26日～令和6年9月27日
孔口標高	EL+6.011m	試錐機	YBM-05
総掘進長	9.00m	エンジン	NS60
ハンマー落下用具	半自動トンビ	ポンプ	V-5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	4.26	1.75	1.75	埋土（砂質粘土）	褐			粘性土を主体とし、若干砂を混入する砂質粘土の埋土層である。深度1.00m迄はやや硬い状態であるが、それ以深は若干軟質となる。
	3.26	1.00	2.75	砂	淡灰			粗砂サイズを主体とする沖積砂層である。砂は海洋性生物遺骸よりなる。
	1.06	2.20	4.95	砂礫	淡褐			礫はϕ20mm以下のサンゴ礫。砂は粗砂サイズを主体とする沖積砂層である。砂は海洋性生物遺骸よりなる。
	-0.79	1.85	6.80	凝灰角礫岩	緑灰			深度4.95m～6.80m間は、ϕ2～20mm程度の安山岩の角礫を多く含む。全体的非常に密な状態である。
	-2.99	2.20	9.00	安山岩	淡褐			深度6.80m以深は、岩塊状を呈する安山岩である。20cm程度の短柱状コアを主体とする。緻密・堅固である。

孔内水位（海面高）：9/27 2.74

標準貫入試験

深度 (m)	打撃回数／貫入量	N値
1.15	6/30	6
1.45		
2.15	3/30	3
2.45		
3.15	6/30	6
3.45		
4.15	7/30	7
4.45		
5.15	20/30	20
5.45		
6.15	60/17	106
6.32		
7.00	60/8	225
7.08		
8.00	60/11	164
8.11		
9.10	60/8	225
9.18		



工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	ボーリング柱状図
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	NO SCALE
適　要				図面番号	Ｓ－０６
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

N

特記事項

・基礎下端は1SL-2,300(設計GL-1,300)とする。
・(　)内は杭符号を示す。

杭仕様

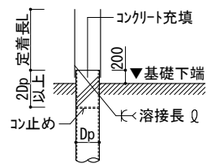
工法：TGパイル工法同等以上
支持層：凝灰角礫岩
先端N値：N=50(長期)　短期N=37.5(メーカー規定)
液状化：考慮あり
杭長：P1～P4→実長5.7m
　　P1A～P3A→実長7.0m(上杭4.0m+下杭3.0m)
杭天端位置：設計GL-1.1m
杭先端位置：P1～P4→設計GL-6.8m
　　P1A～P3A→設計GL-8.1m
杭種：軸部 STK490　翼部 SM490A

杭径		杭支持力		
P1・P1B	-φ267.4x12.7-翼径φ800x45-4本	P1・P1B	: 1,150kN (長期)	1,730kN (短期)
P2	-φ267.4x12.7-翼径φ650x28-4本	P2	: 810kN (長期)	1,220kN (短期)
P3	-φ267.4x12.7-翼径φ550x19-1本	P3	: 620kN (長期)	930kN (短期)
P4	-φ216.3x10.3-翼径φ450x19-2本	P4	: 410kN (長期)	620kN (短期)
P1A	-φ267.4x12.7-翼径φ800x45-1本	P1A	: 1,150kN (長期)	1,730kN (短期)
P2A	-φ267.4x12.7-翼径φ650x28-5本	P2A	: 810kN (長期)	1,220kN (短期)
P3A	-φ267.4x12.7-翼径φ550x19-2本	P3A	: 620kN (長期)	930kN (短期)
	total=19本			

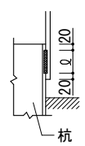
※杭の施工に際し、規則1条の3第1項に掲げる表三の認定に関する性能評価の内、基礎杭の許容支持力が、長期及び短期の設計支持力を確実に確保されるように認定内容に則した支持層及び周面摩擦力を得られる事を確認すること。また、平成28年国土交通省告示468号並びに「基礎ぐい工事における工事ガイドライン」及び最新版「建築工事監理指針」(第4章 地業工事等)に準拠した品質管理方法にて施工計画書を作成し実施することとする。

杭頭補強

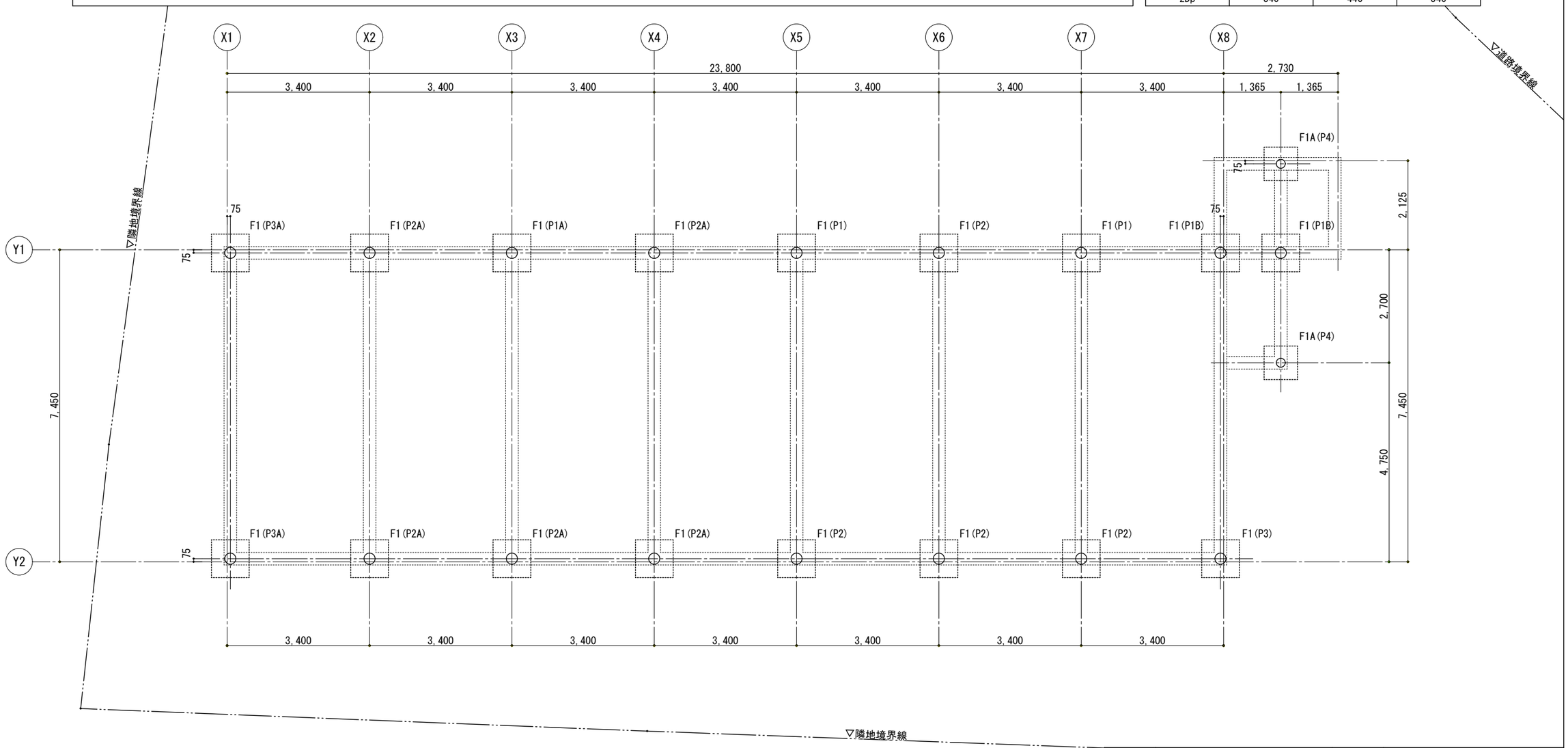
既成杭(鋼管)



溶接要領



杭符号	P1, P2, P1A, P2A	P4	P1B, P3, P3A
杭径	φ267.4	φ216.3	φ267.4
補強筋	5-D16	7-D22	8-D22
定着長	560	770	770
溶接長	80	110	110
溶接脚長	6	8	8
2Dp	540	440	540



工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	杭基礎伏図
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	１／１００
適　要				図面番号	Ｓ－０７
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

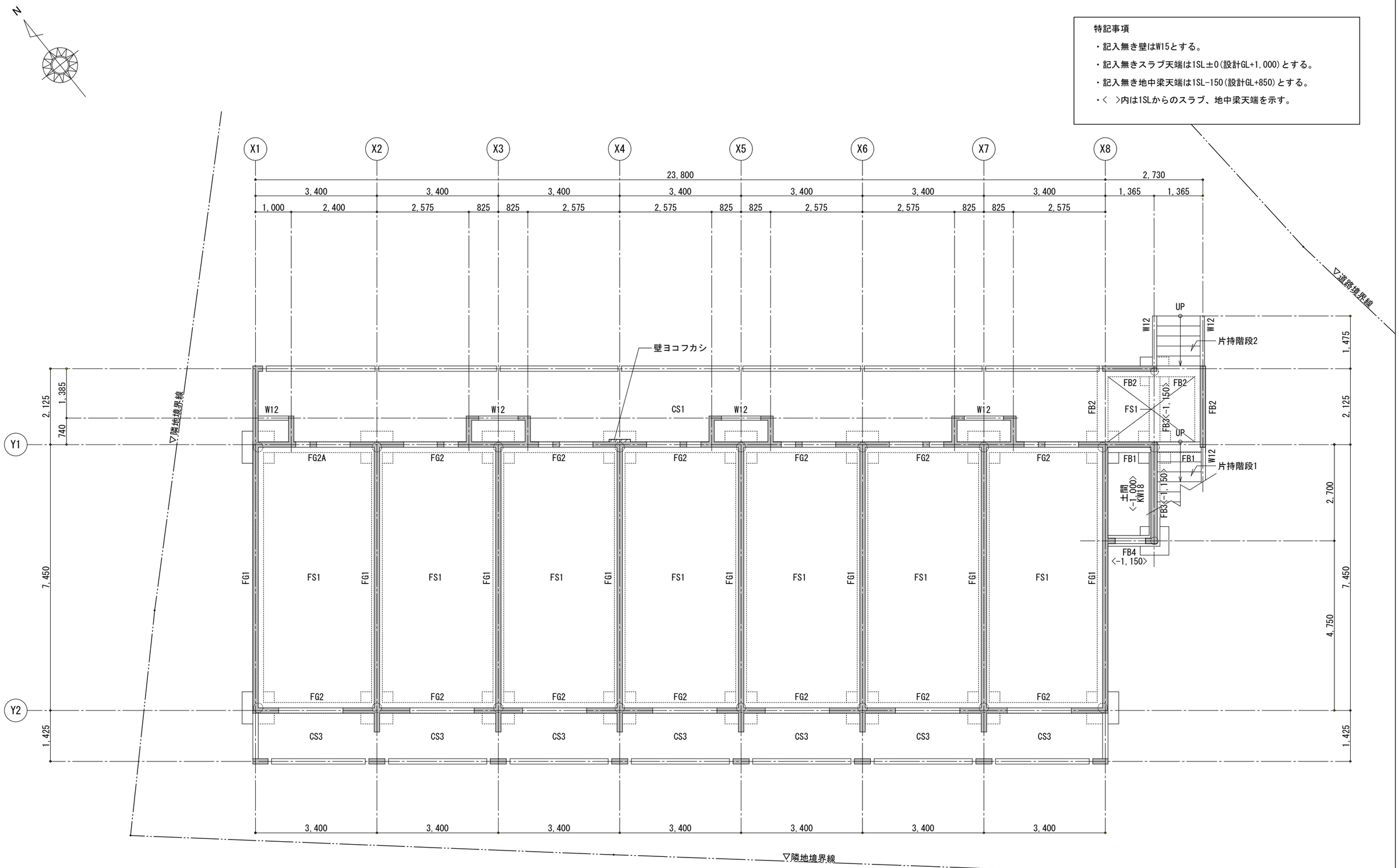
特記事項

・記入無き壁はW15とする。

・記入無きスラブ天端は1SL±0(設計GL+1,000)とする。

・記入無き地中梁天端は1SL-150(設計GL+850)とする。

・〈　〉内は1SLからのスラブ、地中梁天端を示す。



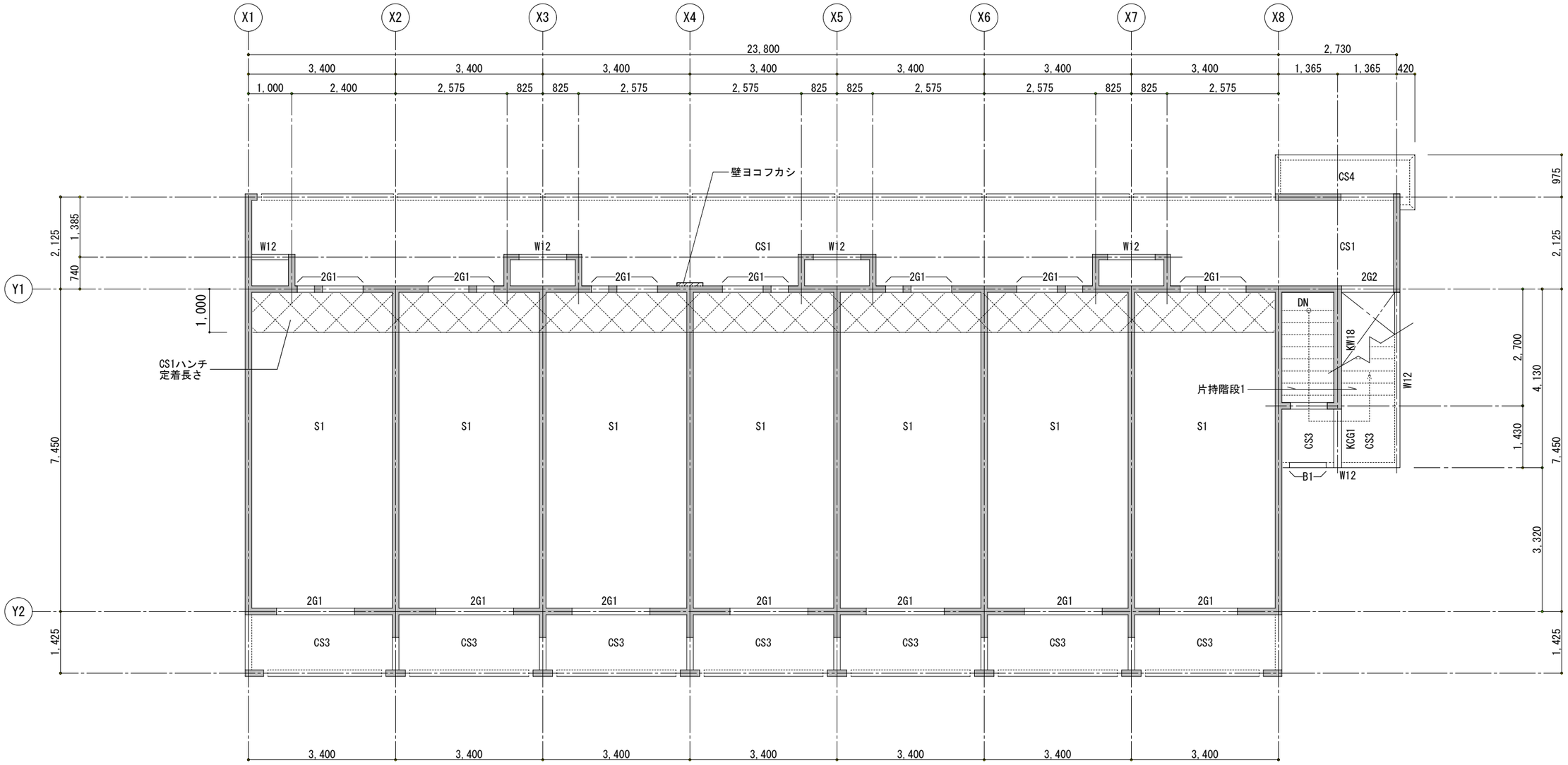
工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	１階梁伏図
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	１／１００
適　要				図面番号	Ｓ－０８
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

特記事項

・記入無き壁はW15とする。

・記入無きスラブ、梁天端は2SL±0とする。



工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	２階梁伏図
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	１／１００
適　要				図面番号	Ｓ－０９
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

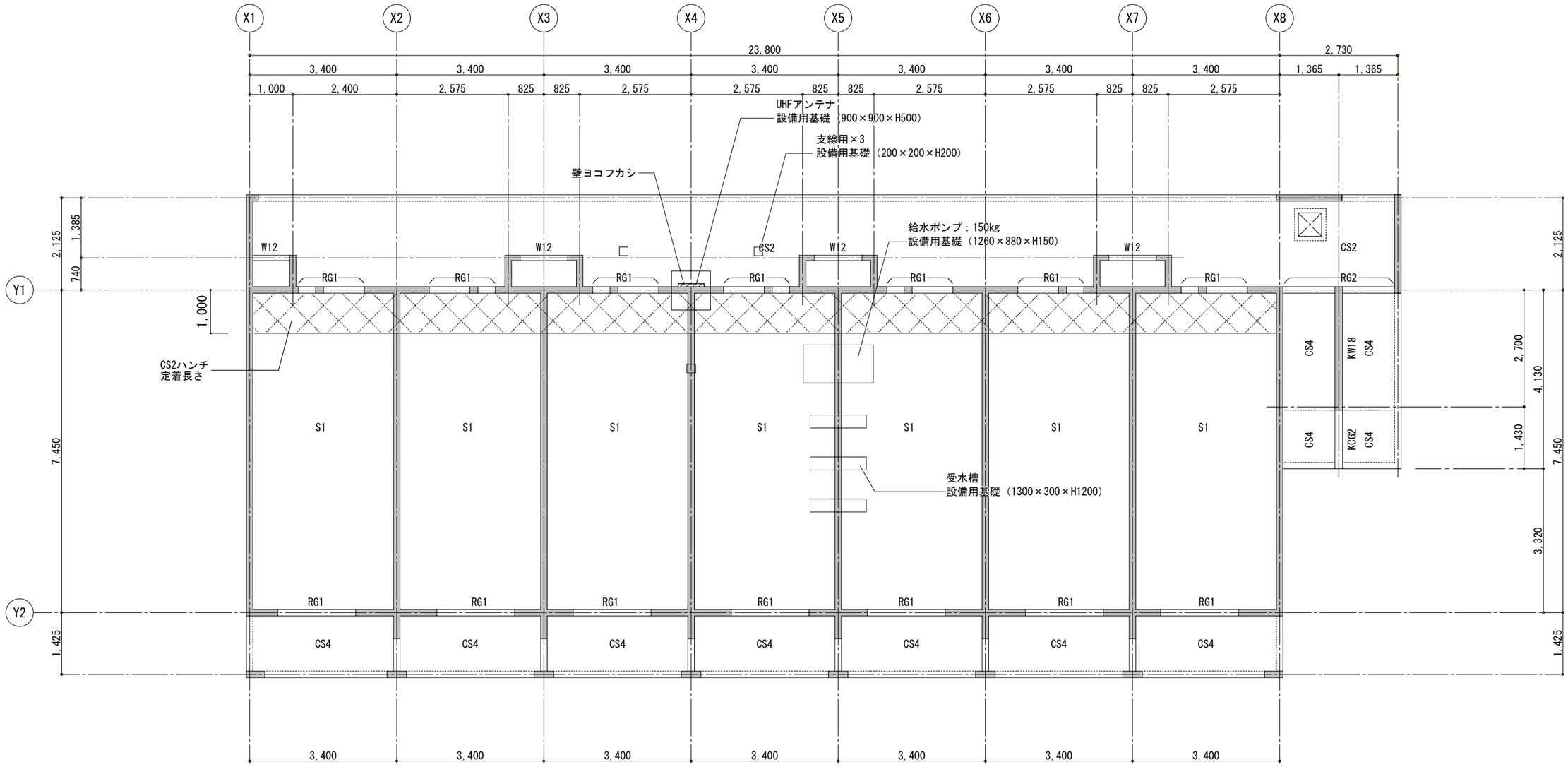
有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

特記事項

・記入無き壁はW15とする。

・記入無きスラブ、梁天端はRSL±0とする。

・(　)内はスラブ主筋方向を示す。



工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度	
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	R階梁伏図	
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	１／１００	
適　要				図面番号	Ｓ－１０	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	株式会社　宮平設計
					資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
					登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
					所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

特記事項

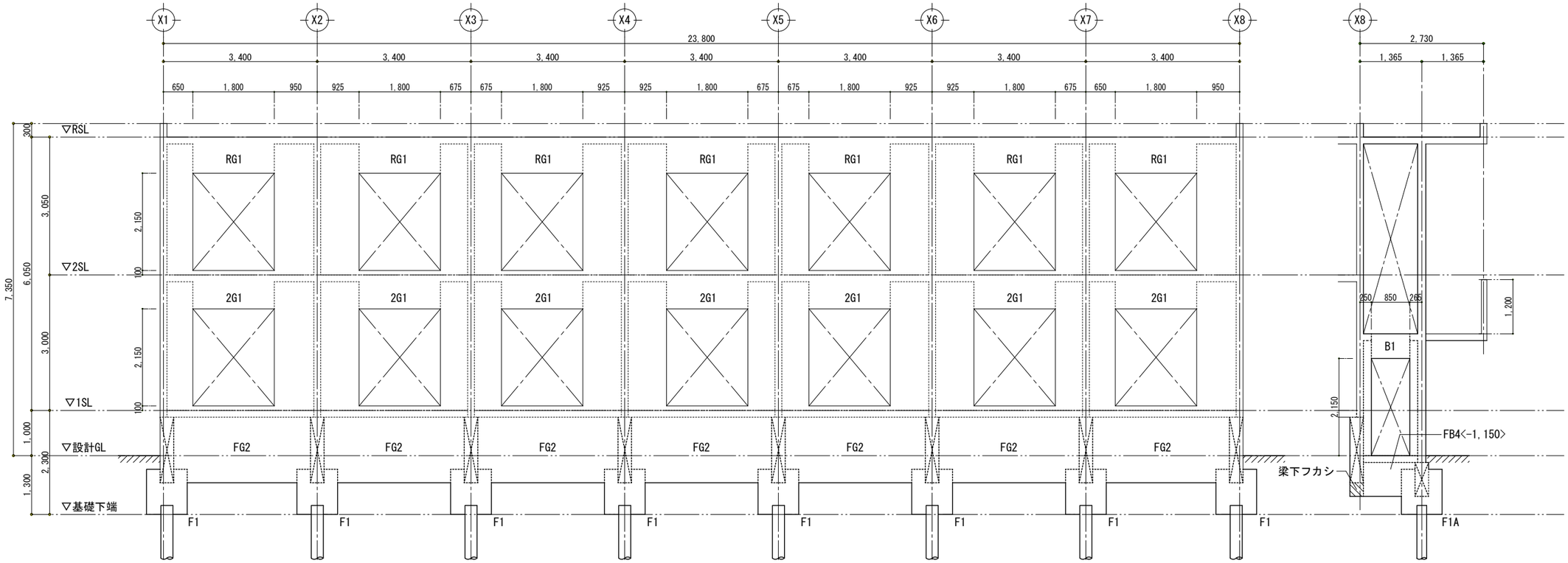
・記入無き壁はW15とする。

・記入無き梁天端はSL±0とする。

・記入無き地中梁天端は1SL-150(設計GL+850)とする。

・<　>内は1SLからの地中梁天端を示す。

・基礎下端は1SL-2,300(設計GL-1,300)とする。



Ｙ２軸組図 1/100

Y2+4750軸組図 1/100

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	軸組図（１）
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	1／１００
適　要				図面番号	Ｓ－１１
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

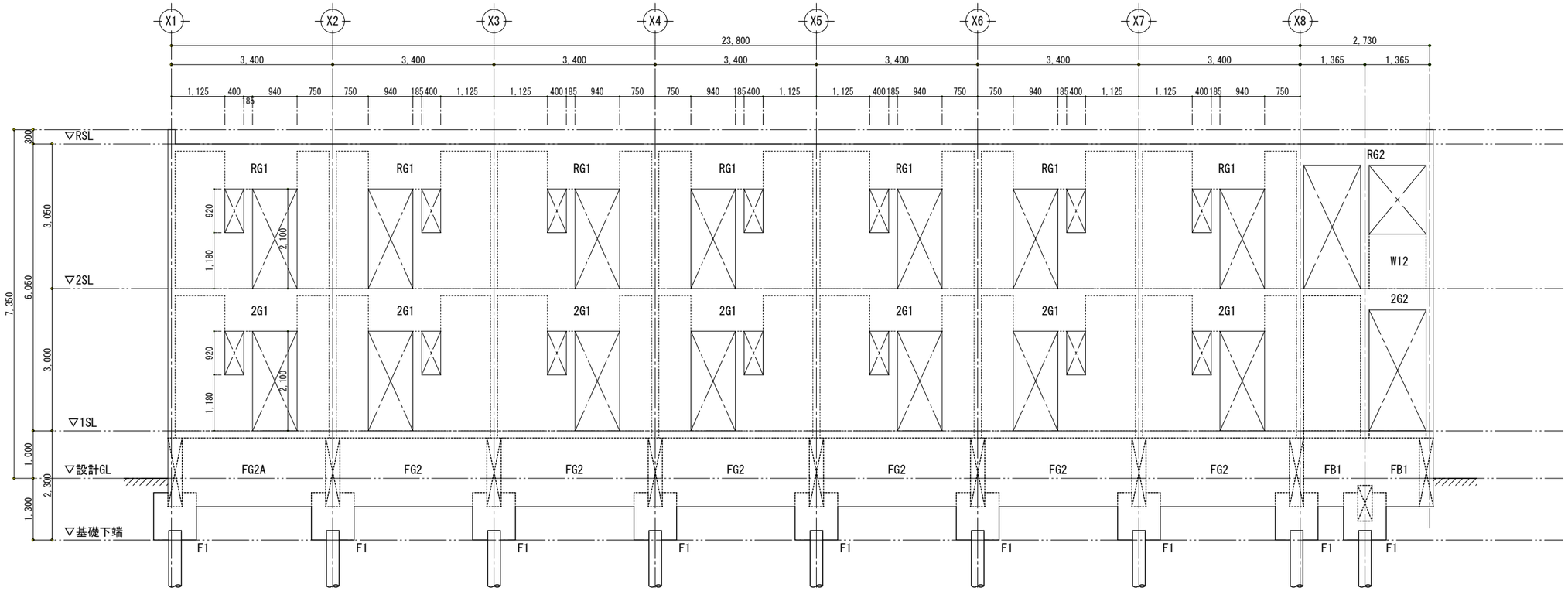
特記事項

・記入無き壁はW15とする。

・記入無き梁天端はSL±0とする。

・記入無き地中梁天端は1SL-150(設計GL+850)とする。

・基礎下端は1SL-2,300(設計GL-1,300)とする。



Ｙ１軸組図 1/100

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	軸組図（２）
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	1／１００
適　要				図面番号	Ｓ－１２
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

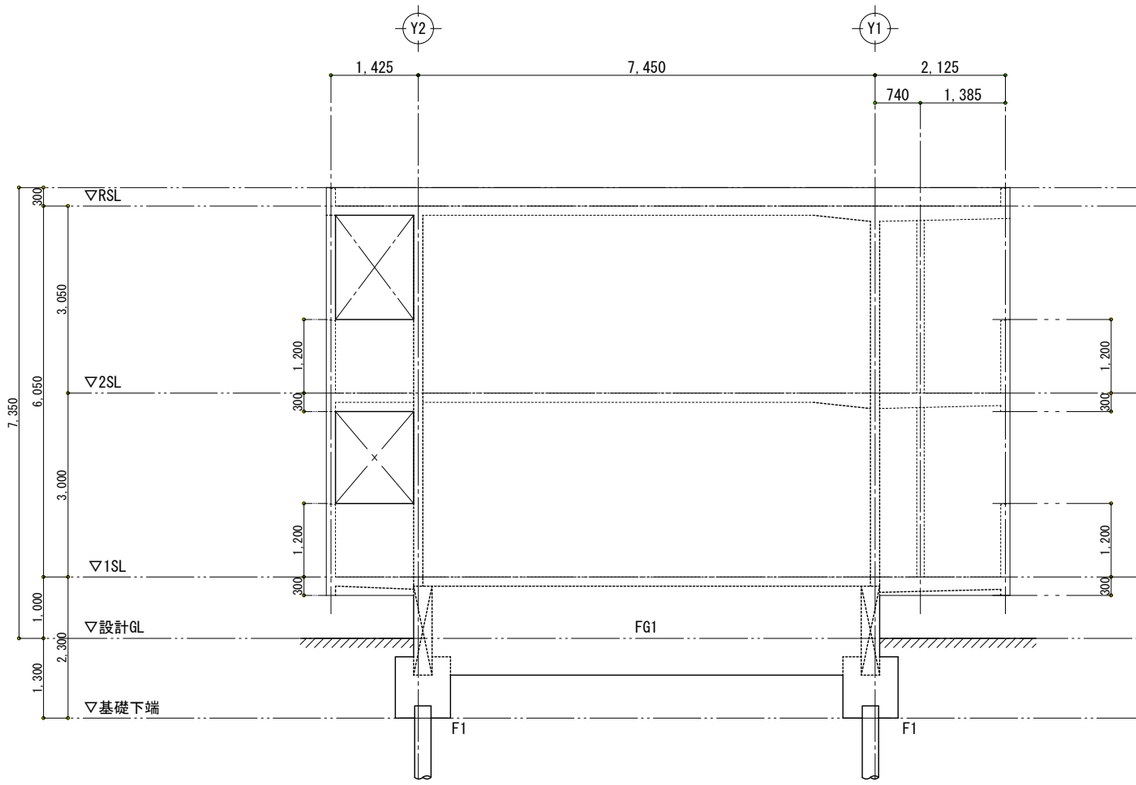
特記事項

・記入無き壁はW15とする。

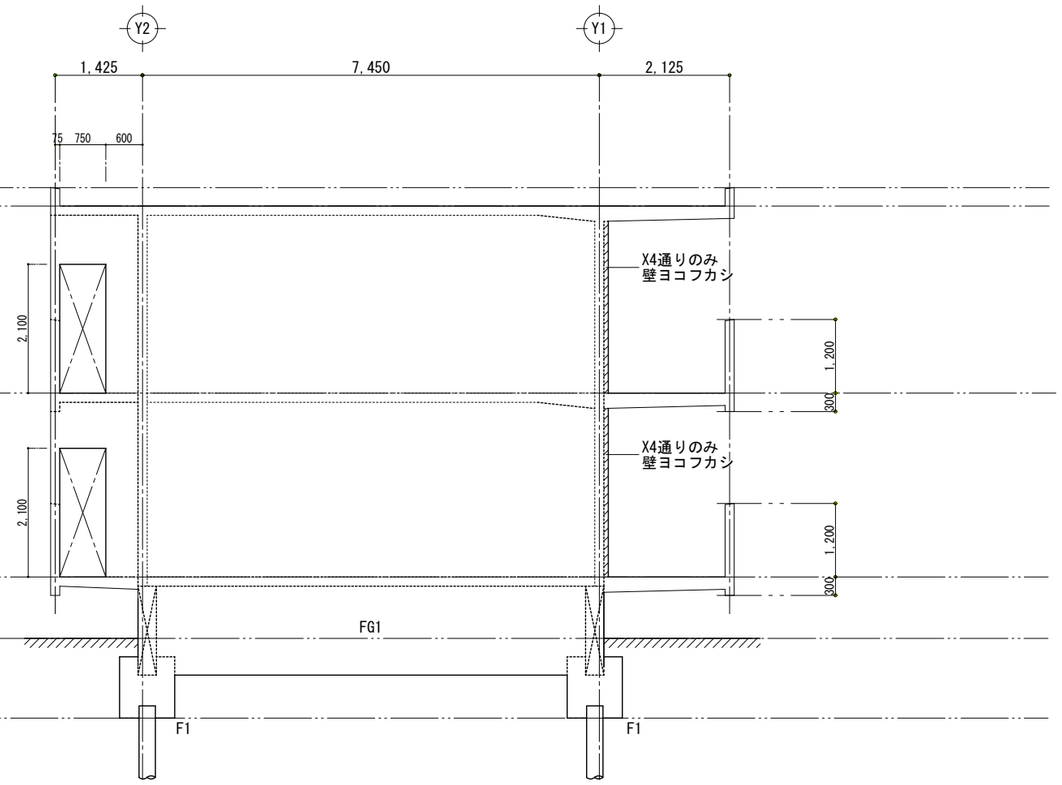
・記入無き梁天端はSL±0とする。

・記入無き地中梁天端は1SL-150(設計GL+850)とする。

・基礎下端は1SL-2,300(設計GL-1,300)とする。



X1軸組図　S=1/100



X2.X4.X6軸組図　S=1/100

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	断面図
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	軸組図（３）
適　要				図面番号	Ｓ－１３
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

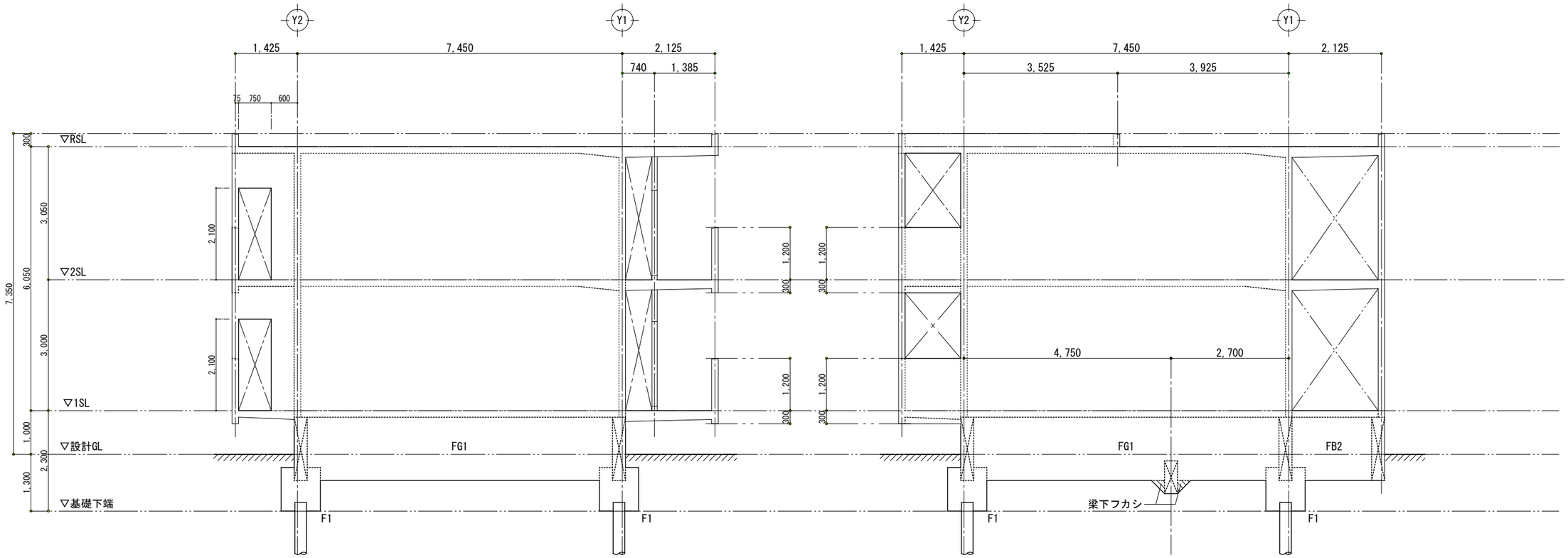
特記事項

・記入無き壁はW15とする。

・記入無き梁天端はSL±0とする。

・記入無き地中梁天端は1SL-150(設計GL+850)とする。

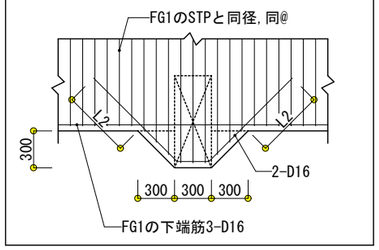
・基礎下端は1SL-2,300(設計GL-1,300)とする。



X3.X5.X7軸組図　S=1/100

X8軸組図　S=1/100

FG1とFB4のフカシ配筋詳細図　S=1/50



工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	断面図
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	軸組図（４）
適　要				図面番号	Ｓ－１４
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名　称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

特記事項

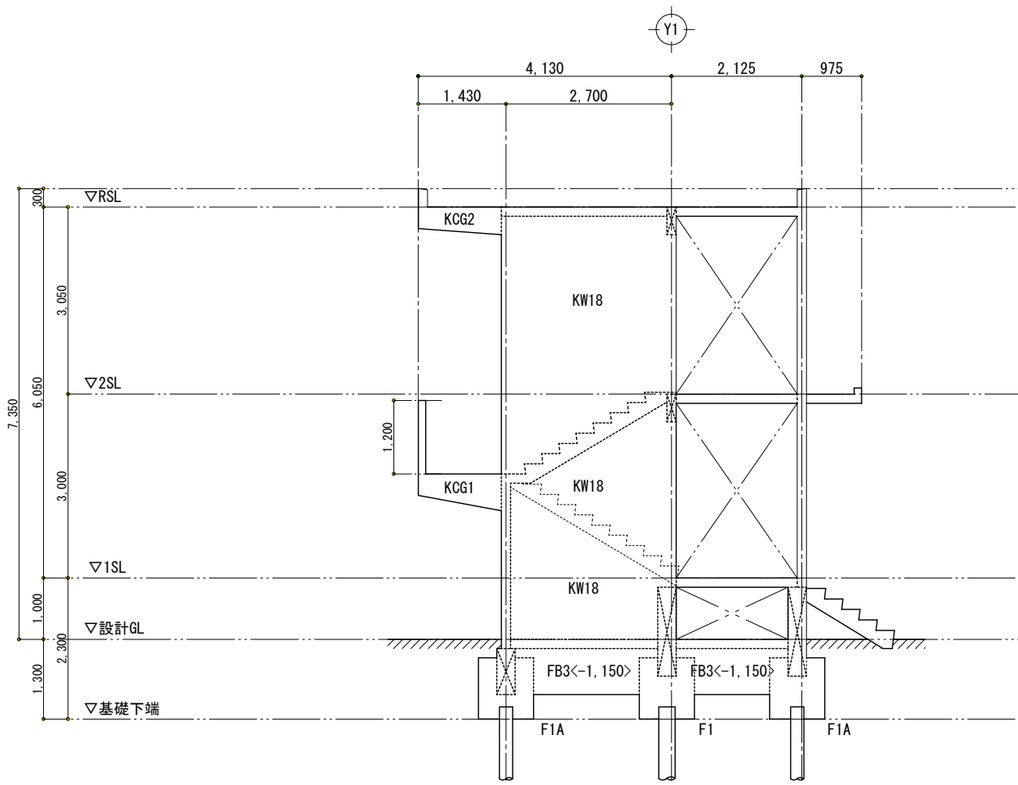
・記入無き壁はW15とする。

・記入無き梁天端はSL±0とする。

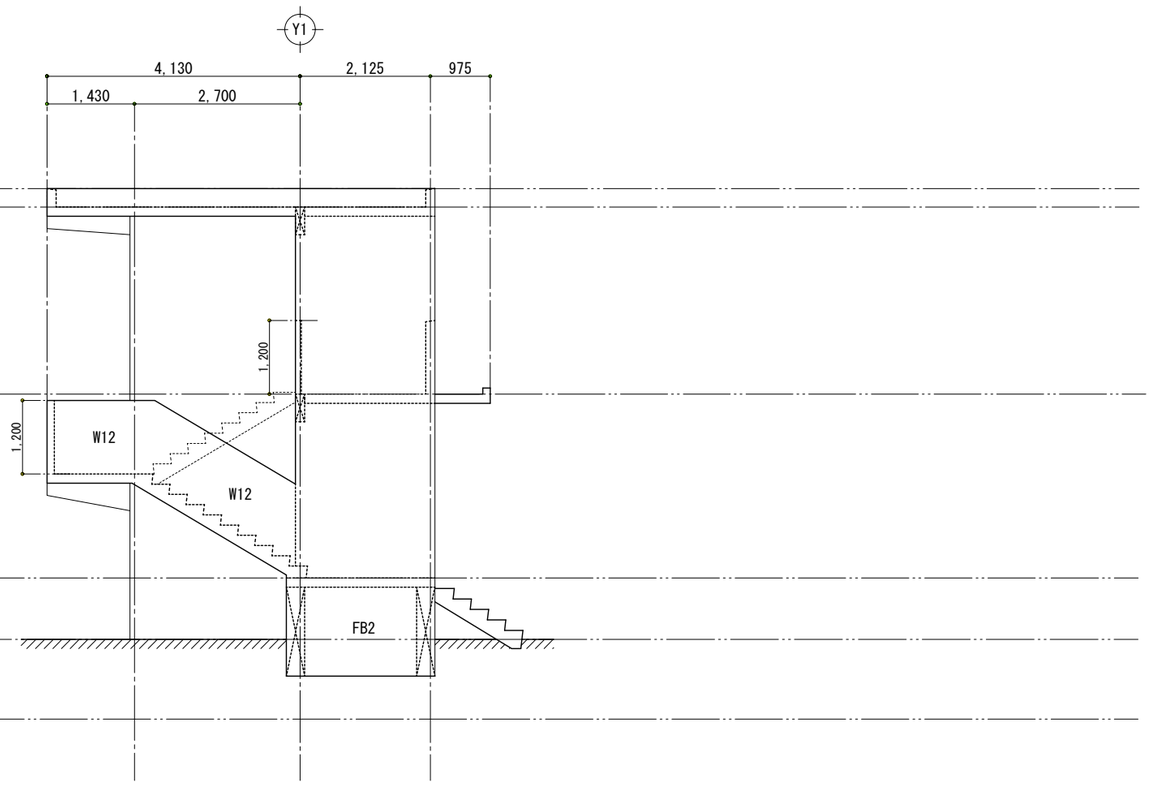
・記入無き地中梁天端は1SL-150(設計GL+850)とする。

・<　>内は1SLからの地中梁天端を示す。

・基礎下端は1SL-2,300(設計GL-1,300)とする。



X8+1,400軸組図　S=1/100



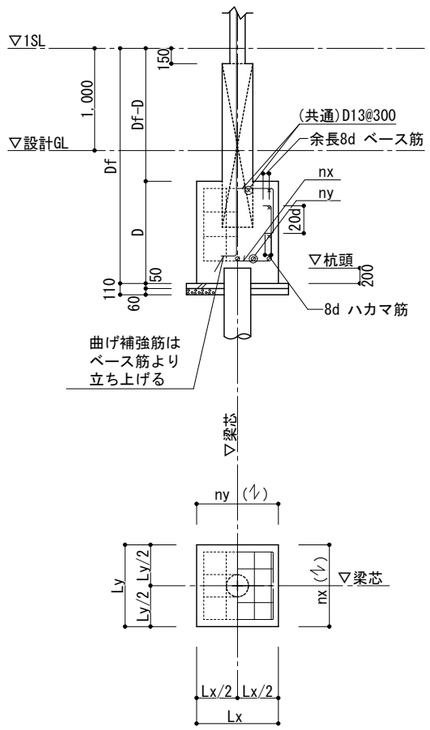
X8+2,800軸組図　S=1/100

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	断面図
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	軸組図（５）
適　要				図面番号	Ｓ－１５
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名　称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

基礎リスト

1本杭基礎凡例

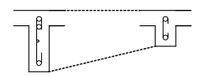
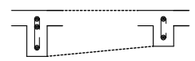


はしあき	杭径x1.25以上
杭間隔	翼径x1.50以上

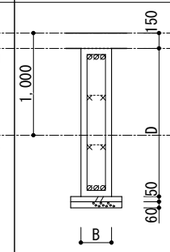
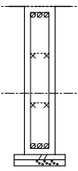
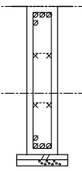
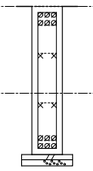
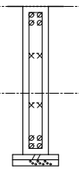
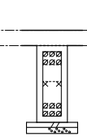
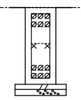
1本杭基礎リスト表

符 号	軸径	翼径	Lx(mm)	Ly(mm)	D(mm)	Df(mm)	nx (本数･径)	ny (本数･径)	備 考
F1	φ267.4	φ800, φ650, φ550	900	900	1,000	2,300	5-D13	5-D13	杭符号：P1～P3,P1A～P3A
F1A	φ216.3	φ450	800	800	1,000	2,300	4-D13	4-D13	杭符号：P4

小梁リスト　S=1/60　　特記：巾止メ筋 ⊂⊃ …D10@1,000

符 号	B1	KCG1		KCG2		
位 置	全断面	基端	先端	基端	先端	
断 面						
B x D	150 x 450以上	180 x 600	180 x 350	180 x 450	180 x 350	
上端筋	1/1-D13	1/1-D22	1-D22	1/1-D19	1-D19	
下端筋	1/1-D13	1-D22	1-D22	1-D19	1-D19	
S T P	1-D10@150	1-D10@150		1-D10@150		
中間部横筋	D10@150	D10@200		-		

地中梁リスト　S=1/60　　特記：巾止メ筋 ⊂⊃ …D10@1,000

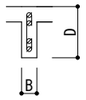
符 号	FG1	FG2	FG2A		FB1	FB2	FB3	FB4	
位 置	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面	
▽1SL △FG天端 断 面 △設計GL									▽設計GL △FG天端
B x D	300 x 1,450	300 x 1,450	300 x 1,450		300 x 1,450	250 x 1,450	300 x 750	300 x 750	
上端筋	3-D16	3-D16	3/1-D16		3/3-D16	2/2-D16	3/3-D16	3/3-D16	
下端筋	3-D16	3-D16	3/1-D16		3/3-D16	2/2-D16	3/3-D16	3/3-D16	
S T P	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200		2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	
腹 筋	4-D13	4-D13	4-D13		4-D13	4-D13	2-D13	2-D13	

有限会社 建築構造研究所
山本 貴之
構造設計1級建築士
交付番号 第10226 号
一級建築士登録 第306464号

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	基礎、地中梁、小梁リスト
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮 尺	1／６０
適 要				図面番号	Ｓ－１６
検 印	管理建築士	設 計	製 図	設計者 名 称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所 在 地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

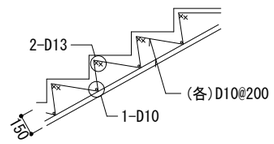
大梁リスト　S=1/60

特記：巾止メ筋 ⌒ …D10@1,000
主筋は開口補強筋と兼用可。　梁せいは開口上部まで可。

階	符　号	RG1	RG2	
R	位　置	全断面	全断面	
	断　面			
	B x D	150 x 500以上	150 x 450	
	上端筋	1/1-D16	1/1-D16	
	下端筋	1/1-D16	1/1-D16	
	S T P	1-D10@150	1-D10@150	
	中間部横筋	D10@150	D10@150	
階	符　号	2G1	2G2	
2	位　置	全断面	全断面	
	断　面			
	B x D	150 x 600以上	150 x 450	
	上端筋	1/1-D16	1/1-D16	
	下端筋	1/1-D16	1/1-D16	
	S T P	1-D10@150	1-D10@150	
	中間部横筋	D10@150	D10@150	

階段リスト

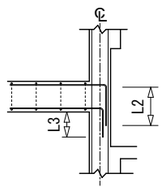
片持階段1



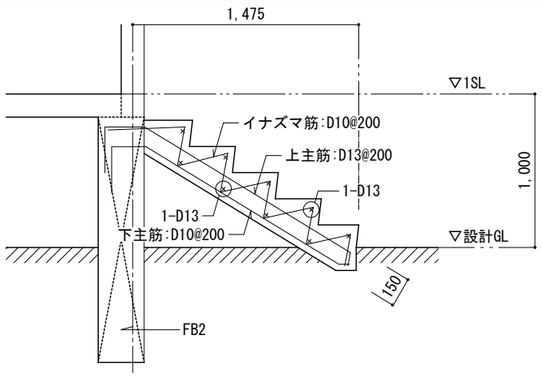
段鼻筋	2-D13
段押筋	1-D10
イナズマ筋	D10@200
配力筋	D10@200
備考	-

配筋要領図

※壁中心を越えて定着する。



片持階段2(エントランス)



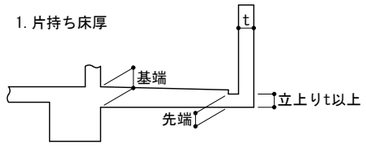
スラブリスト

特記：短辺方向を主筋方向とする。　CS断面にて厚い方を基端部とする。

符　号	床　厚	位　置	主筋方向	配力筋方向	備　考
S1	150	上端筋	D10,D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS1	250～200	上端筋	D16@150	D10@150	廊下
		下端筋	D10@150	D10@150	
CS2	250～200	上端筋	D13@150	D10@150	廊下庇
		下端筋	D10@150	D10@150	
CS3	150	上端筋	D13@100	D10@150	ベランダ、踊場
		下端筋	D10@100	D10@150	
CS4	150	上端筋	D10,D13@150	D10@150	ベランダ庇、階段屋根
		下端筋	D10@150	D10@150	
FS1	150	上端筋	D10,D13@200	D10@200	敷き砂利 厚100㎜
		下端筋	D10@200	D10@200	
土間	150	上端筋	D10@150	D10@150	敷き砂利 厚100㎜ 転圧は十分に行う事
		下端筋	-	-	

スラブ特記事項

1.片持ち床厚



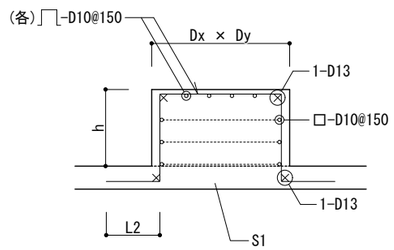
・ベランダ等の片持床で水勾配がある場合は
　コンクリート勾配に合わせた床配筋とする。
・片持ち床基端厚は指定厚以上の厚さとする。

2.設備配管

・床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/4以下とし、配管同士の中心間隔は70㎜以上とし、
　3本を超えて平行配管はしてはいけない、ただし相互間隔が300㎜を超える場合は、この限りでは無い。
　原則として、梁面より500㎜以内の範囲に長さ1ｍを超える配管をしてはいけない。

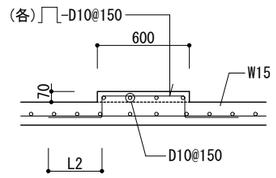
・スラブ内の配筋の経路は事前に検討を行い、配管が集中する箇所については工事監理と協議の上、
　部分的にスラブを下げる又は、スラブを厚くする等の対策を講じること。

設備基礎配筋詳細図　S=1/40



断面図

壁ヨコフカシ配筋詳細図　S=1/40



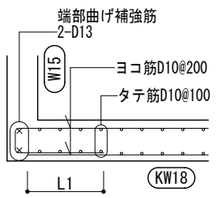
平面図

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	大梁、階段、スラブリスト
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	1／６０
適　要				図面番号	Ｓ－１７
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名　称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

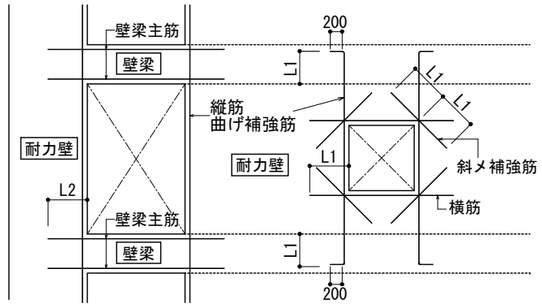
有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

壁リスト

符　号	W12	W15	KW18		CB15
断　面（鉛直）	ヨコ筋 タテ筋	ヨコ筋 タテ筋	ヨコ筋 タテ筋		ヨコ筋 タテ筋
	シングル	シングル	ダブル		シングル
壁　厚	120	150	180		150
タテ筋	D10@200	D10@150	D10@100		D10@400
ヨコ筋	D10@200	D10@150	D10@200		D10@400
開口補強筋 タテ筋(曲げ)	2-D13	2-D13	2-D13		-
開口補強筋 ヨコ筋	2-D13	2-D13	-		-
開口補強筋 斜メ筋	-	1-D13	-		-
交差部曲げ補強筋	2-D13	2-D13	2-D13		1-D13
備考	雑壁	耐力壁	階段支持壁		CB壁

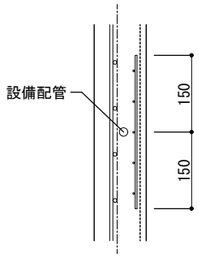


開口補強筋要領図



・上下開口位置が連続している場合は原則として曲げ補強筋は通し配筋とし、下部はベース筋より立ち上げる。
・開口上下に腰壁・垂れ壁がある場合の曲げ補強筋は壁梁にL1以上定着および梁主筋位置で折曲げ定着とする。

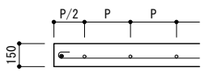
壁内設備配管



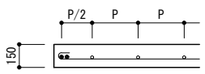
1. 外壁、耐力壁には原則として配管は埋め込まない。ただし止むを得ず配管する場合はPF(16)以下の配管とし、配管ピッチ500mm以上とする。
2. 地下外壁の配管は接地用配管及び防犯用配管を除き、原則として行わない。
3. 配管が集中する分電盤廻りは壁厚を厚くする、複配筋とする等の処置を講ずる。
4. 壁内配管は鉄筋の間に配置する、シングル壁配筋の場合はワイヤーメッシュで補強する。(ワイヤーメッシュ　6 φ-100 x 100)
   ワイヤーメッシュのかぶり厚は設計かぶり厚以上、目地フカシがある場合はフカシの外側からでも可。
5. 配管まわりのかぶり厚（鉄筋とのあき等）は最小かぶり厚以上。

壁、開口端部配筋形状　　特記：S-02 6.耐力壁を参照。

単配筋水平断面



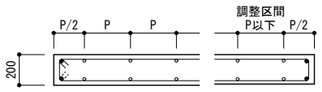
(a)端部曲げ補強筋1本の場合



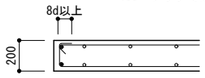
(b)端部曲げ補強筋2本の場合

単配筋の場合
端部曲げ補強筋に
180° フックを付けかぎ掛け

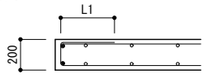
複配筋水平断面



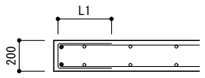
複配筋の場合
135° フックでかぎ掛け



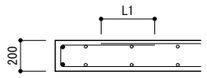
(a)帯筋方式の変形



(c)重ね継手方式

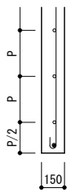


(b)Ｕ形筋を用いた重ね継手



(d)重ね継手方式

単配筋鉛直断面

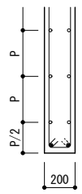


(a)端部曲げ補強筋
1本の場合

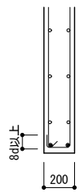
(b)端部曲げ補強筋
2本の場合

単配筋の場合
端部曲げ補強筋に
180° フックを付けかぎ掛け

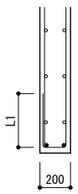
複配筋鉛直断面



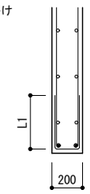
複配筋の場合
135° フックでかぎ掛け



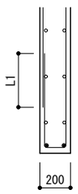
(a)帯筋方式の変形



(c)重ね継手方式



(b)Ｕ形筋を用いた
重ね継手

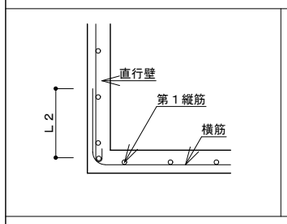


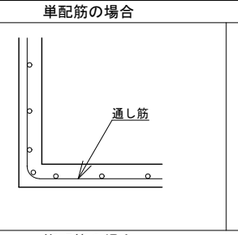
(d)重ね継手方式

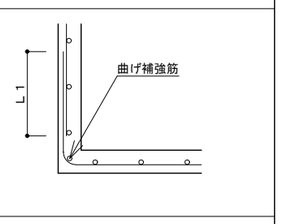
耐力壁交差部補強要領　※交差部では原則として横筋の継手を設けない。

Ｌ形交差部

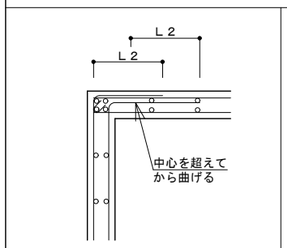
単配筋の場合

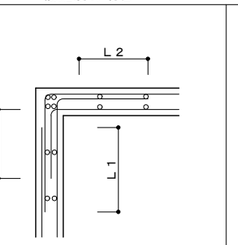


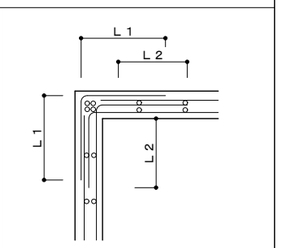




複配筋の場合

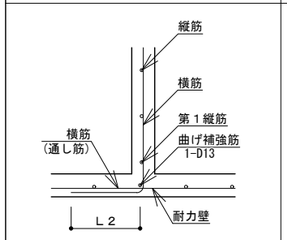




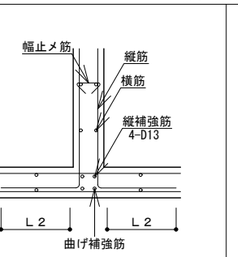


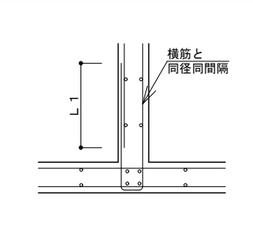
Ｔ形交差部

単配筋の場合



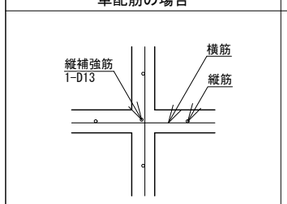
複配筋の場合



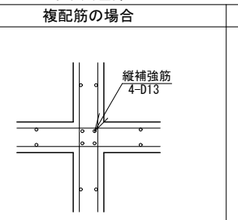


十形交差部

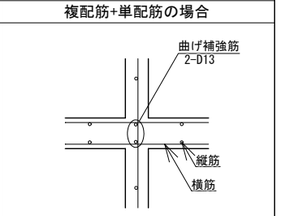
単配筋の場合



複配筋の場合

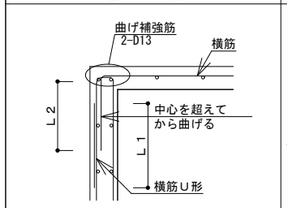


複配筋+単配筋の場合

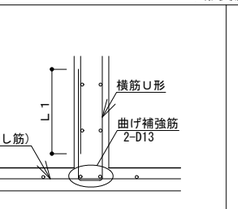


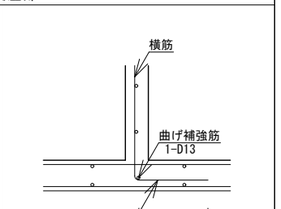
複配筋+単配筋の場合

Ｌ形交差部



Ｔ形交差部





工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	壁リスト
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	1／６０
適　要				図面番号	Ｓ－１８
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名　称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

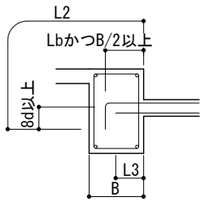
有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号

配筋要領図

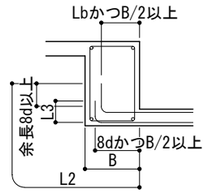
高低差のある場合のスラブ筋の収まり要領図

スラブが梁側面に付く場合

(1)梁の中間にスラブが付く場合

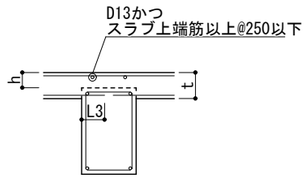


(2)逆スラブの場合

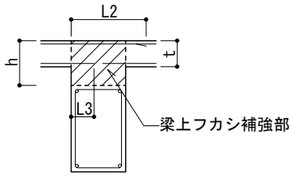


梁より両側のスラブが上がる場合

(1)h＜70かつスラブ筋下端筋が梁主筋の下を通る場合

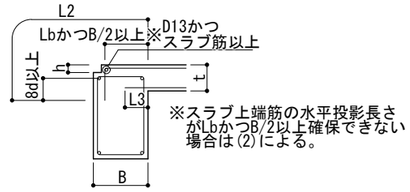


(2)h≧70㎜(梁上打増し補強部に定着)

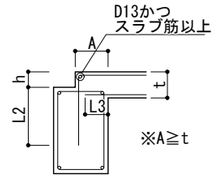


梁より片側スラブが上がる場合

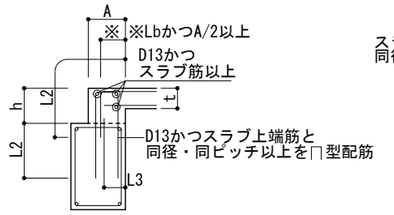
(1)0≦h≦50㎜かつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合



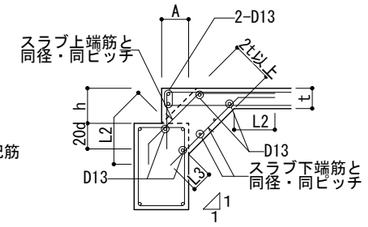
(2)h＞50㎜かつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合



(3)A≧2t

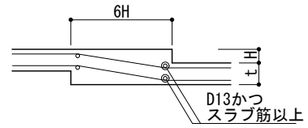


(4)2t＞A≧100



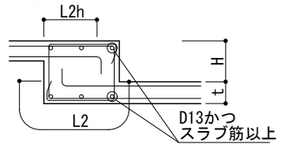
スラブ中間部に高低差のある場合

(1)段差が小さい場合
(H≦t/2)



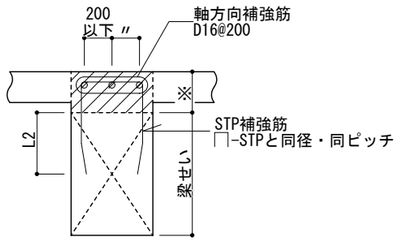
・上記以外の場合は構造図による。

(2)段差がスラブ厚程度の場合
(t/2＜H≦2t)

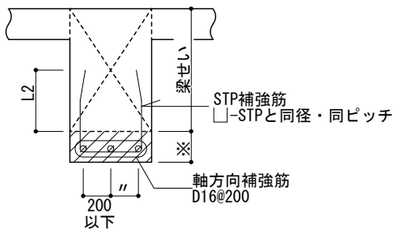


梁フカシ補強要領図

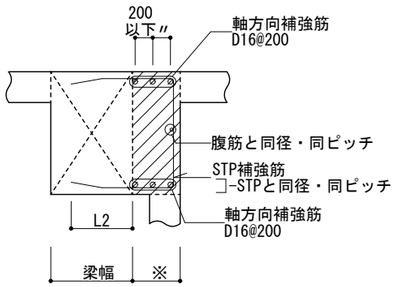
・※…100㎜を超える場合とする。



梁上フカシ

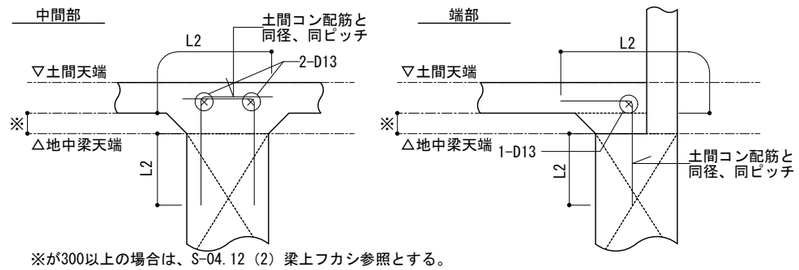


梁下フカシ



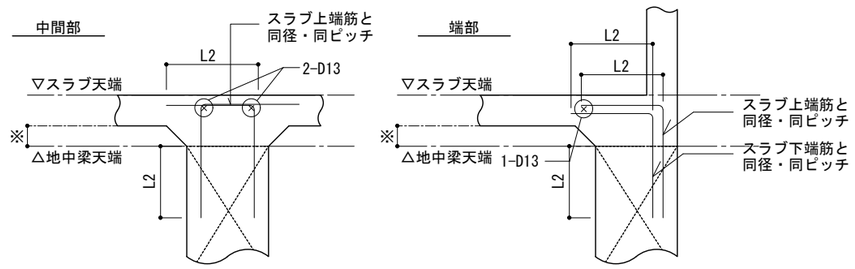
梁側面フカシ

土間コンクリート受け配筋要領図



※が300以上の場合は、S-04.12 (2) 梁上フカシ参照とする。

土間スラブ(1F構造スラブ)受け配筋要領図



※が300以上の場合は、S-04.12 (2) 梁上フカシ参照とする。

工事名称	定住促進住宅整備実施設計業務			工事年度	令和６年度
工事場所	久米島町字儀間1041番地			図面名称	配筋要領図
発注機関	久米島町役場　企画財政課			縮　尺	NO SCALE
適　要				図面番号	Ｓ－１９
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名　称	株式会社　宮平設計
				資格者氏名	一級建築士　徳村　泉
				登録番号	一級建築士事務所知事登録　第１４４－３３号 一級建築士　大臣登録　第３５０１６０号
				所　在　地	沖縄県那覇市　首里山川町三丁目６１番９号

有限会社 建築構造研究所
山本　貴之
構造設計1級建築士
交付番号　第10226 号
一級建築士登録　第306464号